

大学番号：33

注3

意見伺い

[平成30年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

横浜国立大学 大学院環境情報学府

注2

## 【意見伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人横浜国立大学

平成30年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務企画部総務企画課

職名・氏名

電話番号 045-339-3175

（夜間） 同上

F A X 045-339-3055

e-mail kikaku.chosei@ynu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

( ) 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 環境情報学府

<人工環境専攻（博士課程前期）>		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	.....	1
2. 授業科目の概要	.....	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	.....	9
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	.....	10
5. 教員組織の状況	.....	13
6. 留意事項等に対する履行状況等	.....	42
7. その他全般的事項	.....	45

<自然環境専攻（博士課程前期）>		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	.....	48
2. 授業科目の概要	.....	52
3. 施設・設備の整備状況、経費	.....	55
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	.....	56
5. 教員組織の状況	.....	59
6. 留意事項等に対する履行状況等	.....	82
7. その他全般的事項	.....	86

<情報環境専攻（博士課程前期）>		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	.....	89
2. 授業科目の概要	.....	93
3. 施設・設備の整備状況、経費	.....	97
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	.....	98
5. 教員組織の状況	.....	101
6. 留意事項等に対する履行状況等	.....	126
7. その他全般的事項	.....	130

＜人工環境専攻（博士課程後期）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	133
2. 授業科目の概要	137
3. 施設・設備の整備状況、経費	140
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	141
5. 教員組織の状況	144
6. 留意事項等に対する履行状況等	164
7. その他全般的事項	167

＜自然環境専攻（博士課程後期）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	170
2. 授業科目の概要	174
3. 施設・設備の整備状況、経費	177
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	178
5. 教員組織の状況	181
6. 留意事項等に対する履行状況等	199
7. その他全般的事項	202

＜情報環境専攻（博士課程後期）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	205
2. 授業科目の概要	209
3. 施設・設備の整備状況、経費	212
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	213
5. 教員組織の状況	216
6. 留意事項等に対する履行状況等	232
7. その他全般的事項	235

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号  
(神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ネガミ セイヤ) 根上 生也 (平成27年4月)		
専攻長 (人工環境専攻 (博士課程前期))	(ナカイ サトシ) 中井 里史 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
環境情報学府 人工環境専攻 (博士課程前期)  修士(環境学) 修士(工学) 修士(学術)	工学関係	年 2	人 75	人 150	基礎となる学部  理工学部 都市科学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成30年度	平成31年度	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	75人 ( - ) [ - ]	—人 ( - ) [ - ]	75人 ( - ) [ - ]	—人 ( - ) [ - ]	0.90倍	
志願者数	77 ( 4 ) [ 11 ]	— ( - ) [ - ]				
受験者数	75 ( 4 ) [ 9 ]	— ( - ) [ - ]				
合格者数	69 ( 4 ) [ 4 ]	— ( - ) [ - ]				
B 入学者数	68 ( 4 ) [ 4 ]	— ( - ) [ - ]				
入学定員超過率 B/A	0.90					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。  
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	68 [ 4 ] ( - )	— [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次	/						
計	68 [ 4 ] ( - )		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	68 人	0 人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合計	68 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{68} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<環境情報学府 人工環境専攻（博士課程前期）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	環境情報リテラシー	持続可能社会とFuture Earth	1・2①		1		3	3	1			2
		超スマート社会の構築に向けて	1・2④		1		2	2				5
		社会インフラにおけるリスクと安全	1・2①		1		4	2				3
		安心社会のための福祉・医療	1・2④		1		4	2				3
		自然災害を考える—過去から未来へ	1・2①		1			2				6
		イノベーション・マネジメント	1・2④		1		2	3				4
		地球科学・生態学的手法	1・2①		1							9
		情報学・数理学的手法	1・2④		1							9
	ジェネリックスキル	環境情報イノベーション演習Ⅰ	1・2②	□	1		7	7	1			20
		環境情報イノベーション演習Ⅱ	1・2⑤		1		9	7				20
研究者・技術者のための研究倫理		1・2⑤		1		2					3	
高度専門職能とキャリア開発		1・2③		1							1	
女性のためのキャリア教育		1・2④		1							1	
グローバル化演習	1・2①~⑥	1			16	14	1					
科講目義ア	人工環境概論Ⅰ	1・2①	1			7	7					
	人工環境概論Ⅱ	1・2②	1			8	7	1				
安全環境工学	環境学											
	社会環境											
専門教育科目	専門講義科目	ライフサイクルアセスメントⅠ	1①		1		1					
		環境疫学・健康リスク評価方法論	1・2①		1		1					
		イノベーション戦略論	1・2①		1		1					
		物質・生命と環境	1・2①		1		4	3	1			
		ライフサイクルアセスメントⅡ	1②		1		1					
		知識マネジメントと標準化	1・2②		1		1					
		環境イノベーション論Ⅰ	1・2④		1			1				
		環境イノベーション論Ⅱ	1・2⑤		1			1				
		環境材料分析手法Ⅰ	1・2①		1		1		1			
		環境化学分析学	1・2①		1		2	2				
		環境材料分析手法Ⅱ	1・2②		1		1		1			
		化学物質環境動態解析	1・2②		1		2	2				
		都市環境管理学	1・2④		1		2	2				
		環境材料設計学Ⅰ	1・2④		1			2				
		環境材料設計学Ⅱ	1・2④		1			2				
		環境洗浄科学	1⑤		1		1					
		地域発展政策Ⅰ	1・2④		1			1				
		地域発展政策Ⅱ	1・2⑤		1			1				
		環境排出管理学	1・2④		1			2				
		Sustainable Health and Environment	1・2④		1		1					
	化学反応プロセスのリスク管理Ⅰ	1・2①		1			1					
	化学反応プロセスのリスク管理Ⅱ	1・2①		1			1					
	環境物理化学Ⅰ	1・2①		1		1	1					
	環境ソフトマター科学Ⅰ	1・2①		1		1	1					
	産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅠ	1・2①		1			1					
	環境機能物質科学Ⅰ	1・2①		1		2						
	非線形力学特論	1・2①		1		1						
	環境物理化学Ⅱ	1・2②		1		1	1					
	環境ソフトマター科学Ⅱ	1・2②		1		1	1					
	化学災害リスク論	1・2④		1		1						
	産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅡ	1・2②		1			1					
	環境機能物質科学Ⅱ	1・2②		1		2						
	機械システムのリスク評価と制御技術Ⅰ	1・2④		1			1					
	火災の科学と防火技術Ⅰ	1・2④		1			1					
	インテリジェント構造システム学	1・2④		1			1					
	安全社会論	1・2④		1		1						
	化学物質のハザード評価	1⑤		1		1						
	機械システムのリスク評価と制御技術Ⅱ	1・2⑤		1			1					
	火災の科学と防火技術Ⅱ	1・2⑤		1			1					
	リスクマネジメント論	1・2⑤		1		1						
環境イノベーション思想史	1・2②		1				1					
イノベーション組織論	1・2④		1		1							
社会老年学Ⅰ	1・2④		1		1							
生(いのち)の哲学	1・2④		1		1							
グローバルビジネスとイノベーション	1・2⑤		1		1							
社会老年学Ⅱ	1・2⑤		1		1							
生態系評価学Ⅰ	1・2①		1									
専門教育科目	専門講義科目	ライフサイクルアセスメントⅠ	1①		1		1					
		環境疫学・健康リスク評価方法論	1・2①		1		1					
		イノベーション戦略論	1・2①		1		1					
		物質・生命と環境	1・2①		1		4	3	1			
		ライフサイクルアセスメントⅡ	1②		1		1					
		知識マネジメントと標準化	1・2②		1		1					
		環境イノベーション論Ⅰ	1・2④		1			1				
		環境イノベーション論Ⅱ	1・2⑤		1			1				
		環境材料分析手法Ⅰ	1・2①		1		1		1			
		環境化学分析学	1・2①		1		2	2				
		環境材料分析手法Ⅱ	1・2②		1		1		1			
		化学物質環境動態解析	1・2②		1		2	2				
		都市環境管理学	1・2④		1		2	2				
		環境材料設計学Ⅰ	1・2④		1			2				
		環境材料設計学Ⅱ	1・2④		1			2				
		環境洗浄科学	1⑤		1		1					
		地域発展政策Ⅰ	1・2④		1			1				
		地域発展政策Ⅱ	1・2⑤		1			1				
		環境排出管理学	1・2④		1			2				
		Sustainable Health and Environment	1・2④		1		1					
化学反応プロセスのリスク管理Ⅰ	1・2①		1			1						
化学反応プロセスのリスク管理Ⅱ	1・2①		1			1						
環境物理化学Ⅰ	1・2①		1		1	1						
環境ソフトマター科学Ⅰ	1・2①		1		1	1						
産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅠ	1・2①		1			1						
環境機能物質科学Ⅰ	1・2①		1		2							
非線形力学特論	1・2①		1		1							
環境物理化学Ⅱ	1・2②		1		1	1						
環境ソフトマター科学Ⅱ	1・2②		1		1	1						
化学災害リスク論	1・2④		1		1							
産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅡ	1・2②		1			1						
環境機能物質科学Ⅱ	1・2②		1		2							
機械システムのリスク評価と制御技術Ⅰ	1・2④		1			1						
火災の科学と防火技術Ⅰ	1・2④		1			1						
インテリジェント構造システム学	1・2④		1			1						
安全社会論	1・2④		1		1							
化学物質のハザード評価	1⑤		1		1							
機械システムのリスク評価と制御技術Ⅱ	1・2⑤		1			1						
火災の科学と防火技術Ⅱ	1・2⑤		1			1						
リスクマネジメント論	1・2⑤		1		1							
環境イノベーション思想史	1・2②		1				1					
イノベーション組織論	1・2④		1		1							
社会老年学Ⅰ	1・2④		1		1							
生(いのち)の哲学	1・2④		1		1							
グローバルビジネスとイノベーション	1・2⑤		1		1							
社会老年学Ⅱ	1・2⑤		1		1							
生態系評価学Ⅰ	1・2①		1									





(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

・担当教員の出張予定により、「地球システム科学Ⅰ」の開講タームを1・2年次④から1・2年次③に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	132 科目	科目	137 科目	5 科目 [ ]	132 科目 [ ]	科目 [ ]	137 科目 [ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"><h2 style="margin: 0;">該当なし</h2></div>
--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{137} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	335,097 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	335,097 m <sup>2</sup>			
	運動場用地	89,916 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	89,916 m <sup>2</sup>			
	小 計	425,013 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	425,013 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	237,446 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	237,446 m <sup>2</sup>			
	合 計	662,459 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	662,459 m <sup>2</sup>			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	環境情報学府		89 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	部局単位での特定不能なため、大学全体の数
	環境情報学府 〔附属図書館〕	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)	
	計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数					
	15,336 m <sup>2</sup>	1,472 席	1,346,389 冊		大学全体			
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	3,882 m <sup>2</sup>	野球場	テニスコートほか		大学全体			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	238	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻(専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		
人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度		

環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
大学の名称	横浜国立大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定学員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
教育学部	年	人	年次人	人		倍		
学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
教育人間科学部								
人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
理工学部								
機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度	平成29年学生募集停止
工学部								
生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度	
教育学研究科								
教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
国際社会科学府								
経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度	
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度	
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度	
法曹実務専攻(専門職学位課程)	3	25	-	75	法務博士(専門職)	0.41	平成25年度	
国際社会科学府研究科								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番

グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度	〒220-8501 神奈川県横浜市磯子区磯子4号	平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>									
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

<環境情報学府 人工環境専攻（博士課程前期）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	野口 和彦 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 安全社会論 リスクマネジメント論 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		大谷 英雄 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 化学物質のハザード評価 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	野口 和彦 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 安全社会論 リスクマネジメント論 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		大谷 英雄 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 化学物質のハザード評価 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 化学物質のハザード評価演習Ⅰ 化学物質のハザード評価演習Ⅱ 化学物質のハザード評価演習Ⅲ 化学物質のハザード評価演習Ⅳ
専	教授	本田 清 ＜平成30年4月＞
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境機能物質科学Ⅰ 物質・生命と環境 環境機能物質科学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境機能物質科学演習Ⅰ 環境機能物質科学演習Ⅱ 環境機能物質科学演習Ⅲ 環境機能物質科学演習Ⅳ
		鈴木 淳史 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境ソフトマター科学Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 化学物質のハザード評価演習Ⅰ 化学物質のハザード評価演習Ⅱ 化学物質のハザード評価演習Ⅲ 化学物質のハザード評価演習Ⅳ
専	教授	本田 清 ＜平成30年4月＞
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境機能物質科学Ⅰ 物質・生命と環境 環境機能物質科学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境機能物質科学演習Ⅰ 環境機能物質科学演習Ⅱ 環境機能物質科学演習Ⅲ 環境機能物質科学演習Ⅳ
		鈴木 淳史 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境ソフトマター科学Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	環境ソフトマター科学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
専	教授	宮崎 隆 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 生(いのち)の哲学 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		大谷 裕之 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境機能物質科学Ⅰ 物質・生命と環境 環境機能物質科学Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	環境ソフトマター科学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
専	教授	宮崎 隆 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 生(いのち)の哲学 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		大谷 裕之 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境機能物質科学Ⅰ 物質・生命と環境 環境機能物質科学Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境機能物質科学演習Ⅰ 環境機能物質科学演習Ⅱ 環境機能物質科学演習Ⅲ 環境機能物質科学演習Ⅳ
専	教授	大矢 勝 ＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境化学分析学 化学物質環境動態解析 都市環境管理学 環境洗浄科学 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境機能物質科学演習Ⅰ 環境機能物質科学演習Ⅱ 環境機能物質科学演習Ⅲ 環境機能物質科学演習Ⅳ
専	教授	大矢 勝 ＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境化学分析学 化学物質環境動態解析 都市環境管理学 環境洗浄科学 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名



専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	化学物質環境動態解析 都市環境管理学 Sustainable Health and Environment 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境化学分析学演習Ⅰ 環境化学分析学演習Ⅱ 環境化学分析学演習Ⅲ 環境化学分析学演習Ⅳ
		周佐 喜和 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ イノベーション組織論 グローバルビジネスとイノベーション 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ
専	教授	

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	化学物質環境動態解析 都市環境管理学 Sustainable Health and Environment 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境化学分析学演習Ⅰ 環境化学分析学演習Ⅱ 環境化学分析学演習Ⅲ 環境化学分析学演習Ⅳ
		周佐 喜和 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ イノベーション組織論 グローバルビジネスとイノベーション 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ
専	教授	

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
専	教授	雨宮 隆 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境物理化学Ⅰ 物質・生命と環境 環境物理化学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境物理化学演習Ⅰ 環境物理化学演習Ⅱ 環境物理化学演習Ⅲ 環境物理化学演習Ⅳ
		本藤 祐樹 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
専	教授	雨宮 隆 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境物理化学Ⅰ 物質・生命と環境 環境物理化学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境物理化学演習Ⅰ 環境物理化学演習Ⅱ 環境物理化学演習Ⅲ 環境物理化学演習Ⅳ
		本藤 祐樹 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ ライフサイクルアセスメントⅠ ライフサイクルアセスメントⅡ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ ライフサイクルアセスメント演習Ⅰ ライフサイクルアセスメント演習Ⅱ ライフサイクルアセスメント演習Ⅲ ライフサイクルアセスメント演習Ⅳ
		安本 雅典 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ イノベーション戦略論 知識マネジメントと標準化 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ ライフサイクルアセスメントⅠ ライフサイクルアセスメントⅡ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ ライフサイクルアセスメント演習Ⅰ ライフサイクルアセスメント演習Ⅱ ライフサイクルアセスメント演習Ⅲ ライフサイクルアセスメント演習Ⅳ
		安本 雅典 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ イノベーション戦略論 知識マネジメントと標準化 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名







専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
専	准教授	長谷部 英一 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境イノベーション思想史 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		亀屋 隆志 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境化学分析学 化学物質環境動態解析 環境排出管理学 都市環境管理学 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
専	准教授	長谷部 英一 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境イノベーション思想史 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		亀屋 隆志 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境化学分析学 化学物質環境動態解析 環境排出管理学 都市環境管理学 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境化学分析学演習Ⅰ 環境化学分析学演習Ⅱ 環境化学分析学演習Ⅲ 環境化学分析学演習Ⅳ
		小林 剛 ＜平成30年4月＞
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境化学分析学 化学物質環境動態解析 環境排出管理学 都市環境管理学 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ
専	准教授	環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境化学分析学演習Ⅰ 環境化学分析学演習Ⅱ 環境化学分析学演習Ⅲ 環境化学分析学演習Ⅳ
		小林 剛 ＜平成30年4月＞
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境化学分析学 化学物質環境動態解析 環境排出管理学 都市環境管理学 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ
専	准教授	環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境化学分析学演習Ⅰ 環境化学分析学演習Ⅱ 環境化学分析学演習Ⅲ 環境化学分析学演習Ⅳ
専	准教授	田中 良巳 ＜平成30年4月＞
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境ソフトマター科学Ⅰ 環境ソフトマター科学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		荒牧 賢治 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 物質・生命と環境

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境化学分析学演習Ⅰ 環境化学分析学演習Ⅱ 環境化学分析学演習Ⅲ 環境化学分析学演習Ⅳ
専	准教授	田中 良巳 ＜平成30年4月＞
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境ソフトマター科学Ⅰ 環境ソフトマター科学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		荒牧 賢治 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 物質・生命と環境

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	環境材料設計学Ⅰ
		環境材料設計学Ⅱ
		人工環境演習Ⅰ
		人工環境演習Ⅱ
		人工環境演習Ⅲ
		人工環境演習Ⅳ
		環境学演習Ⅰ
		環境学演習Ⅱ
		環境学演習Ⅲ
		環境学演習Ⅳ
		安全環境工学演習Ⅰ
		安全環境工学演習Ⅱ
		安全環境工学演習Ⅲ
		安全環境工学演習Ⅳ
		人工環境ワークショップⅠ
		人工環境ワークショップⅡ
		環境材料設計学演習Ⅰ
		環境材料設計学演習Ⅱ
		環境材料設計学演習Ⅲ
		環境材料設計学演習Ⅳ
専	准教授	鳴海 大典
		＜平成30年4月＞
		自然災害を考える—過去から未来へ
		環境情報イノベーション演習Ⅰ
		グローバル化演習
		人工環境概論Ⅱ
		環境イノベーション論Ⅰ
		環境イノベーション論Ⅱ
		人工環境演習Ⅰ
		人工環境演習Ⅱ
		人工環境演習Ⅲ
		人工環境演習Ⅳ
		環境学演習Ⅰ
		環境学演習Ⅱ
		環境学演習Ⅲ
		環境学演習Ⅳ
		社会環境演習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	環境材料設計学Ⅰ
		環境材料設計学Ⅱ
		人工環境演習Ⅰ
		人工環境演習Ⅱ
		人工環境演習Ⅲ
		人工環境演習Ⅳ
		環境学演習Ⅰ
		環境学演習Ⅱ
		環境学演習Ⅲ
		環境学演習Ⅳ
		安全環境工学演習Ⅰ
		安全環境工学演習Ⅱ
		安全環境工学演習Ⅲ
		安全環境工学演習Ⅳ
		人工環境ワークショップⅠ
		人工環境ワークショップⅡ
		環境材料設計学演習Ⅰ
		環境材料設計学演習Ⅱ
		環境材料設計学演習Ⅲ
		環境材料設計学演習Ⅳ
専	准教授	鳴海 大典
		＜平成30年4月＞
		自然災害を考える—過去から未来へ
		環境情報イノベーション演習Ⅰ
		グローバル化演習
		人工環境概論Ⅱ
		環境イノベーション論Ⅰ
		環境イノベーション論Ⅱ
		人工環境演習Ⅰ
		人工環境演習Ⅱ
		人工環境演習Ⅲ
		人工環境演習Ⅳ
		環境学演習Ⅰ
		環境学演習Ⅱ
		環境学演習Ⅲ
		環境学演習Ⅳ
		社会環境演習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境イノベーション論演習Ⅰ 環境イノベーション論演習Ⅱ 環境イノベーション論演習Ⅲ 環境イノベーション論演習Ⅳ
専	准教授	松宮 正彦 ＜平成30年4月＞
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境物理化学Ⅰ 物質・生命と環境 環境物理化学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境物理化学演習Ⅰ 環境物理化学演習Ⅱ 環境物理化学演習Ⅲ 環境物理化学演習Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境イノベーション論演習Ⅰ 環境イノベーション論演習Ⅱ 環境イノベーション論演習Ⅲ 環境イノベーション論演習Ⅳ
専	准教授	松宮 正彦 ＜平成30年4月＞
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 環境物理化学Ⅰ 物質・生命と環境 環境物理化学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境物理化学演習Ⅰ 環境物理化学演習Ⅱ 環境物理化学演習Ⅲ 環境物理化学演習Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	熊崎 美枝子 (44) <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 化学反応プロセスのリスク管理Ⅰ 化学反応プロセスのリスク管理Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅰ 化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅱ 化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅲ 化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅳ
専	准教授	澁谷 忠弘 <平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 機械システムのリスク評価と制御技術Ⅰ 機械システムのリスク評価と制御技術Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	熊崎 美枝子 (44) <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 化学反応プロセスのリスク管理Ⅰ 化学反応プロセスのリスク管理Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅰ 化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅱ 化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅲ 化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅳ
専	准教授	澁谷 忠弘 <平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 機械システムのリスク評価と制御技術Ⅰ 機械システムのリスク評価と制御技術Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 機械システムのリスク評価と制御技術演習Ⅰ 機械システムのリスク評価と制御技術演習Ⅱ 機械システムのリスク評価と制御技術演習Ⅲ 機械システムのリスク評価と制御技術演習Ⅳ
専	准教授	笠井 尚哉 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅠ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅡ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメント演習Ⅰ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメント演習Ⅱ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメント演習Ⅲ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメント演習Ⅳ
		白石 俊彦 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ インテリジェント構造システム学 人工環境演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 機械システムのリスク評価と制御技術演習Ⅰ 機械システムのリスク評価と制御技術演習Ⅱ 機械システムのリスク評価と制御技術演習Ⅲ 機械システムのリスク評価と制御技術演習Ⅳ
専	准教授	笠井 尚哉 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅠ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅡ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメント演習Ⅰ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメント演習Ⅱ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメント演習Ⅲ 産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメント演習Ⅳ
		白石 俊彦 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ インテリジェント構造システム学 人工環境演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名



専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名
専	准教授	人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ インテリジェント構造システム学演習Ⅰ インテリジェント構造システム学演習Ⅱ インテリジェント構造システム学演習Ⅲ インテリジェント構造システム学演習Ⅳ
専	准教授	伊藤 暁彦 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 物質・生命と環境 環境材料設計学Ⅰ 環境材料設計学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境材料設計学演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名
専	准教授	人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ インテリジェント構造システム学演習Ⅰ インテリジェント構造システム学演習Ⅱ インテリジェント構造システム学演習Ⅲ インテリジェント構造システム学演習Ⅳ
専	准教授	伊藤 暁彦 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 人工環境概論Ⅰ 物質・生命と環境 環境材料設計学Ⅰ 環境材料設計学Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 安全環境工学演習Ⅰ 安全環境工学演習Ⅱ 安全環境工学演習Ⅲ 安全環境工学演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ 環境材料設計学演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		環境材料設計学演習Ⅱ 環境材料設計学演習Ⅲ 環境材料設計学演習Ⅳ
専	准教授	遠藤 聡 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 地域発展政策Ⅰ 地域発展政策Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		藤井 麻樹子 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境材料分析手法Ⅰ 物質・生命と環境 環境材料分析手法Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
		環境材料設計学演習Ⅱ 環境材料設計学演習Ⅲ 環境材料設計学演習Ⅳ
専	准教授	遠藤 聡 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 地域発展政策Ⅰ 地域発展政策Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ 人工環境演習Ⅳ 環境学演習Ⅰ 環境学演習Ⅱ 環境学演習Ⅲ 環境学演習Ⅳ 社会環境演習Ⅰ 社会環境演習Ⅱ 社会環境演習Ⅲ 社会環境演習Ⅳ 人工環境ワークショップⅠ 人工環境ワークショップⅡ
		藤井 麻樹子 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 人工環境概論Ⅱ 環境材料分析手法Ⅰ 物質・生命と環境 環境材料分析手法Ⅱ 人工環境演習Ⅰ 人工環境演習Ⅱ 人工環境演習Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名



専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
兼任	教授	根上 生也
		＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習
兼任	教授	西村 尚史
		＜平成30年4月＞ 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼任	教授	松田 裕之
		＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 生態リスクと社会的合意
兼任	教授	長尾 智晴
		＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼任	教授	松本 勉
		＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼任	教授	小池 文人
		＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習
兼任	教授	平塚 和之
		＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
兼任	教授	根上 生也
		＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習
兼任	教授	西村 尚史
		＜平成30年4月＞ 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼任	教授	松田 裕之
		＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 生態リスクと社会的合意
兼任	教授	長尾 智晴
		＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼任	教授	松本 勉
		＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼任	教授	小池 文人
		＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習
兼任	教授	平塚 和之
		＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞







専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
兼担	准教授	吉岡 克成
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	准教授	山本 伸次
		<平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼担	准教授	佐々木 雄大
		<平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 生態系評価学Ⅰ
兼担	准教授	小関 健太
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	講師	白川 真一
		<平成30年4月> 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	講師	牛越 恵理佳
		<平成30年4月> 自然災害を考えるー過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼担	教授	有光 直子
		<平成30年4月> 女性のためのキャリア教育

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
兼担	准教授	吉岡 克成
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	准教授	山本 伸次
		<平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼担	准教授	佐々木 雄大
		<平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 生態系評価学Ⅰ
兼担	准教授	小関 健太
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	講師	白川 真一
		<平成30年4月> 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	講師	牛越 恵理佳
		<平成30年4月> 自然災害を考えるー過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼担	教授	有光 直子
		<平成30年4月> 女性のためのキャリア教育

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>



専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	志田 基与師
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ 高度専門職能とキャリア開発
兼担	教授	金子 信博
		<平成30年4月>
		地球科学・生態学的手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ

専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	志田 基与師
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ 高度専門職能とキャリア開発
兼担	教授	金子 信博
		<平成30年4月>
		地球科学・生態学的手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ

専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

- (注)
- ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。  
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任、兼担、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
11	8	0
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
16	14	1	0	31	16	14	1	0	31	16	14	1	0	31
(16)	(14)	(1)	(0)	(31)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
30	0	1			30	0	1			30	0	1		
(30)	(0)	(1)								[ 30 ]	[ 0 ]	[ 1 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{31}{31} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{31} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|





<p>10月入学生の受入れに際して、各「演習」及び「ワークショップ」については開講時期を見直すことで、開講回数を増やして複数チームでの開講が予定されているが、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「演習」においては、指導教員及び副指導教員の連携・協力のもと実施することで、特定の教員に過度に負担が集中しないよう配慮する。 「ワークショップ」については、「ワークショップ運営委員会」を設置し、専攻を越えた日程調整や博士課程後期の学生の配置などを計画することとした。その委員会が、教員の負担が過度にならないようにスケジュールを計画して、ワークショップを実行する。(H30)</p>	<p>履行済</p>	
<p>社会人学生の受入れに際して、社会人入学者の勤務の都合に応じて夜間、土曜日、日曜日に開講するなど柔軟な対応が検討されていることは、学生本人にとっては望ましい対応と言える一方で、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>社会人学生のうち、官公庁や会社などに在職している者はその長または代表者から「就学承認書」を提出してもらい、在職のままでも就学には支障がない旨を保証してもらっており、基本的に通常の時間帯に受講することになる。したがって、通常は社会人学生に対して特段の対応をする必要はなく、学生の仕事の都合などにより必要な場合は柔軟に対応するが、教員に大きな負担を強いるものではない。なお、博士課程前期の社会人入学者は極めて例外的であり、今年度の博士課程前期の社会人学生は、人工環境専攻の4名だけであり、進学のために2年間を免除されている者、退職者、主婦、無職の留学生であり、一般の学生と同じ研究指導を行うことができている。これまでの実績から推測して、次年度以降も同じような状況が続くと考えられる。今後も上記対応を継続し、教員の負担が過度にならないよう配慮する。(H30)</p>	<p>履行済</p>	
<p>社会人学生の受入れに際して、「設置の趣旨等を記載した書類」においては、博士前期課程の社会人入学者は極めて例外的と想定していることが明示されていないことや、どの程度の授業科目が夜間、土曜日、日曜日開講の対象となるかが明示されていないことなど具体的な受入体制が明確でないことから、社会人の入学希望者に対しては、事前に具体的な受入体制や支援方策等について適切に情報提供を行うことが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「社会人特別選抜学生募集要項」に「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について」というページを設け、修学の条件や履修計画の立て方、演習科目やワークショップの開講時間の個別対応について明記した。(H30)</p>	<p>履行済</p>	

	留学生の受入れの促進に向けて、シラバスを英語表記化するなど、留学生に対する学修の支援の充実を図ることが望ましい。【3専攻共通】	その他意見	現在、HPIにおける平成30年度組織改編の概要、渡日前特別選抜の募集要項、全学留学生用パンフレットについて英語表記のものを用意した。 (H30)	未履行	シラバスと履修手引きの英語表記化は今年度に行う予定である。 (H30)
	海外留学先におけるICTを活用した遠隔指導について、ICTに係る学修環境の違いや時差等、具体的な実施に際しての課題も想定されることから、学生にとって具体的な実施体制が理解しやすいよう実施要領を明文化するなど、事前の履修指導等において適切な情報提供を行うことが望ましい。【3専攻共通】	その他意見	グローバル化演習運営委員会を立ち上げ、海外留学、ショートビジットを希望する学生および指導教員からの相談に乗り、その実現方法を協議する体制を整えた。また、本学の授業支援システムを活用して、海外留学やショートビジットを行う上で必要な情報を発信するようにしている。 (H30)	履行済	
設置計画履行状況調査時 (31年2月)					
設置計画履行状況調査時 (32年2月)					

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<環境情報学府 人工環境専攻（博士課程前期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <h1 style="margin: 0;">該当なし</h1> </div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センター及び、平成30年度に発足した大学院教育強化推進センターが中心となって教員の資質向上、FD活動を行っている。これらのセンターには、教育開発・学修支援部会が置かれ、環境情報学府から1名が部会委員として関わり、学府内でのFD活動をはじめとする資質の維持向上にかかる連絡調整、実施等を担当している。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センター規則

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

(2) 教育開発・学修支援部門

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第13条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(3) 研究科及び各学府の教授会から選出された教員 各1人

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会： 年4～5回

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会： 年4回程度を予定

##### c 委員会の審議事項等

##### ○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会

- ・ 授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等、
- ・ ファカルティ・ディベロップメント 等

##### ○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会

- ・ 大学院全学教育科目の全学的な総合調整、授業実施計画、カリキュラム編成
- ・ 大学院の授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ ファカルティ・ディベロップメント 等



## ② 実施状況

### a 実施内容

高大接続・全学教育推進センター及び大学院教育強化推進センターが行う活動に学府として協力・実施する予定である。

- ・ FDフォーラムへの参加
- ・ シラバス改善（ループリックの利用等）
- ・ 新任教員のための研修会出席 等

### b 実施方法

- ・ 各内容に即し、全学でコーディネートして実施する予定

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 毎年開催されている新任教員研修会（今年度4月1日開催）に、新規採用教員を参加させている。

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 2018年3月に『「修士力・博士力」を磨くYNU initiative』を策定し、共通理解の基に実施していく。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

### a 実施の有無及び実施時期

- ・ 未定

### b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 未定

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## （3）自己点検・評価等に関する事項

### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画にしたがった学府改組を行い、入試を実施した。（入試倍率：博士課程前期1.1倍、博士課程後期0.7倍）新カリキュラムに対応した履修案内、時間割を作成し、また、学府全教員を対象とした新カリキュラムに係る公聴会を平成30年3月26日に開催し新カリキュラムの内容を確認するとともに、設置計画の着実かつ効果的の実行を目指し、これまでの学務関係を検討する学務委員会の他に新たに「環境情報リテラシー科目運営委員会」「グローバル化演習運営委員会」「ワークショップ運営委員会」を立ち上げ、新カリキュラムに基づく教育を行っている。

### ② 自己点検・評価報告書

#### a 公表（予定）時期

未定

#### b 公表方法

未定

### ③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

- (注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (4) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表(予定)の有無 (  有 ・  無 )
- b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

- (注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
- ・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号  
(神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ネガミ セイヤ) 根上 生也 (平成27年4月)		
専攻長 (自然環境専攻 (博士課程前期))	(イシカワ マサヒロ) 石川 正弘 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
環境情報学府 自然環境専攻 (博士課程前期)  修士(環境学) 修士(理学) 修士(学術)	理学関係	年 2	人 33	人 66	基礎となる学部  理工学部 都市科学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成30年度	平成31年度	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	33人 ( - ) [ - ]	—人 ( - ) [ - ]	33人 ( - ) [ - ]	—人 ( - ) [ - ]	0.90倍	
志願者数	32 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
受験者数	31 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
合格者数	30 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
B 入学者数	30 ( - ) [ - ]	— ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	0.90					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ( )内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ [ ]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	30 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/				
計	30 [ - ] ( - )		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	30人	0人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合計	30人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<環境情報学府 自然環境専攻（博士課程前期）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	環境情報リテラシー	持続可能社会とFuture Earth	1・2①-④	1		1						8
		超スマート社会の構築に向けて	1・2①-④	1								9
		社会インフラにおけるリスクと安全	1・2①-④	1		2						7
		安心社会のための福祉・医療	1・2①-④	1			1					8
		自然災害を考える—過去から未来へ	1・2①-④	1		3						5
		イノベーション・マネジメント	1・2①-④	1		1						8
		地球科学・生態学的手法	1・2①-④	1		1	7					1
		情報学・数理科学的手法	1・2①-④	1								9
	ジェネリックスキル	環境情報イノベーション演習Ⅰ	1・2②	□	1		7	7				21
		環境情報イノベーション演習Ⅱ	1・2⑤		1		1	1				34
研究者・技術者のための研究倫理		1・2⑤		1		1					4	
高度専門職能とキャリア開発		1・2③		1							1	
	女性のためのキャリア教育	1・2④		1							1	
	グローバル化演習	1・2④-⑥	1			8	8					
科講目義ア	自然環境概論Ⅰ	1・2①	1			3	4				1	
	自然環境概論Ⅱ	1・2②	1			4	4					
専門教育科目	環境科学	生態系評価学Ⅰ	1・2①	1			1					
		自然生態系設計学Ⅰ	1・2①	1			1					
		生態学:進化と環境適応	1・2①	1		1						
		土壌生物学Ⅰ	1・2①	1			1					
		生態系評価学Ⅱ	1・2②	1			1					
		自然生態系管理学	1・2②	1			1					
		ユネスコエコパークや保護制度を活用した環境共生型地域の創出	1・2②	1		1						
		自然生態系設計学Ⅱ	1・2④	1		1						
		生態リスクと社会的合意	1・2④	1		1						
		野生動物・水産資源管理学	1・2⑤	1		1						
		外来生物問題を解決するモデルと社会	1・2⑤	1		1						
		植物遺伝子機能学Ⅰ	1・2④	1			1					
		地球システム物質循環論Ⅰ	1・2①	1			1					
		古生態学Ⅰ	1・2①	1			1					
		海洋生物環境学Ⅰ	1・2②	1			1					
		土壌生物学Ⅱ	1・2②	1			1					
		植物遺伝子機能学Ⅱ	1・2⑤	1			1					
		地球システム物質循環論Ⅱ	1・2②	1			1					
		古生態学Ⅱ	1・2①	1			1					
		海洋生物環境学Ⅱ	1・2②	1			1					
		土壌生態学Ⅰ	1・2④	1								1
		植物遺伝子工学Ⅰ	1・2④	1		1						
		地球システム科学Ⅰ	1・2④	1		1						
		海洋システム科学Ⅰ	1・2④	1		1						
		海洋古環境学Ⅰ	1・2④	1		1						
		土壌生態学Ⅱ	1・2⑤	1								1
		植物遺伝子工学Ⅱ	1・2⑤	1		1						
		植物分子生理学Ⅰ	1・2④	1			1					
		植物分子生理学Ⅱ	1・2⑤	1			1					
		地球システム科学Ⅱ	1・2⑤	1		1						
		海洋システム科学Ⅱ	1・2⑤	1		1						
		海洋古環境学Ⅱ	1・2⑤	1		1						
		環境法Ⅰ	1・2①	1			1					
		地域発展政策Ⅰ	1・2④	1								1
		環境法Ⅱ	1・2②	1			1					
		地域発展政策Ⅱ	1・2⑤	1								1
		環境イノベーション論Ⅰ	1・2④	1								1
		社会老年学Ⅰ	1・2④	1								1
		イノベーション組織論	1・2④	1								1
		環境イノベーション論Ⅱ	1・2⑤	1								1
社会老年学Ⅱ	1・2⑤	1								1		
グローバルビジネスとイノベーション	1・2⑤	1								1		
生態学特別講義	1・2③	2		2	3					1		
生態学特別実験	1・2③	2		2	3					1		
分子生物学特別講義	1・2③	2		1	2							
分子生物学特別実験	1・2③	2		1	2							
地球科学特別講義	1・2③	2		3	3							
地球科学特別実験	1・2③	2		3	3							
学府共通科目	環境情報リテラシー	持続可能社会とFuture Earth	1・2①-④	1		1						8
		超スマート社会の構築に向けて	1・2①-④	1								9
		社会インフラにおけるリスクと安全	1・2①-④	1		2						7
		安心社会のための福祉・医療	1・2①-④	1			1					8
		自然災害を考える—過去から未来へ	1・2①-④	1		3						5
		イノベーション・マネジメント	1・2①-④	1		1						8
		地球科学・生態学的手法	1・2①-④	1		1	7					1
		情報学・数理科学的手法	1・2①-④	1								9
	ジェネリックスキル	環境情報イノベーション演習Ⅰ	1・2②	□	1		7	7				21
		環境情報イノベーション演習Ⅱ	1・2⑤		1		1	1				34
研究者・技術者のための研究倫理		1・2⑤		1		1					4	
高度専門職能とキャリア開発		1・2③		1							1	
	女性のためのキャリア教育	1・2④		1							1	
	グローバル化演習	1・2④-⑥	1			8	8					
科講目義ア	自然環境概論Ⅰ	1・2①	1			3	4				1	
	自然環境概論Ⅱ	1・2②	1			4	4					
専門教育科目	環境科学	生態系評価学Ⅰ	1・2①	1			1					
		自然生態系設計学Ⅰ	1・2①	1			1					
		生態学:進化と環境適応	1・2①	1		1						
		土壌生物学Ⅰ	1・2①	1			1					
		生態系評価学Ⅱ	1・2②	1			1					
		自然生態系管理学	1・2②	1			1					
		ユネスコエコパークや保護制度を活用した環境共生型地域の創出	1・2②	1		1						
		自然生態系設計学Ⅱ	1・2④	1		1						
		生態リスクと社会的合意	1・2④	1		1						
		野生動物・水産資源管理学	1・2⑤	1		1						
		外来生物問題を解決するモデルと社会	1・2⑤	1		1						
		植物遺伝子機能学Ⅰ	1・2④	1			1					
		地球システム物質循環論Ⅰ	1・2①	1			1					
		古生態学Ⅰ	1・2①	1			1					
		海洋生物環境学Ⅰ	1・2②	1			1					
		土壌生物学Ⅱ	1・2②	1			1					
		植物遺伝子機能学Ⅱ	1・2⑤	1			1					
		地球システム物質循環論Ⅱ	1・2②	1			1					
		古生態学Ⅱ	1・2①	1			1					
		海洋生物環境学Ⅱ	1・2②	1			1					
		土壌生態学Ⅰ	1・2④	1								1
		植物遺伝子工学Ⅰ	1・2④	1		1						
		地球システム科学Ⅰ	1・2④	1		1						
		海洋システム科学Ⅰ	1・2④	1		1						
		海洋古環境学Ⅰ	1・2④	1		1						
		土壌生態学Ⅱ	1・2⑤	1								1
		植物遺伝子工学Ⅱ	1・2⑤	1		1						
		植物分子生理学Ⅰ	1・2④	1			1					
		植物分子生理学Ⅱ	1・2⑤	1			1					
		地球システム科学Ⅱ	1・2⑤	1		1						
		海洋システム科学Ⅱ	1・2⑤	1		1						
		海洋古環境学Ⅱ	1・2⑤	1		1						
		環境法Ⅰ	1・2①	1			1					
		地域発展政策Ⅰ	1・2④	1								1
		環境法Ⅱ	1・2②	1			1					
		地域発展政策Ⅱ	1・2⑤	1								1
		環境イノベーション論Ⅰ	1・2④	1								1
		社会老年学Ⅰ	1・2④	1								1
		イノベーション組織論	1・2④	1								1
		環境イノベーション論Ⅱ	1・2⑤	1								1
社会老年学Ⅱ	1・2⑤	1								1		
グローバルビジネスとイノベーション	1・2⑤	1								1		
生態学特別講義	1・2③	2		2	3					1		
生態学特別実験	1・2③	2		2	3					1		
分子生物学特別講義	1・2③	2		1	2							
分子生物学特別実験	1・2③	2		1	2							
地球科学特別講義	1・2③	2		3	3							
地球科学特別実験	1・2③	2		3	3							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	○ ○ ○ 自然環境演習Ⅰ	1①・④		1		8	8					専門教育科目	○ ○ ○ 自然環境演習Ⅰ	1①・④		1		8	8						
	○ ○ ○ 自然環境演習Ⅱ	1②・⑤		1		8	8						○ ○ ○ 自然環境演習Ⅱ	1②・⑤		1		8	8						
	○ ○ ○ 自然環境演習Ⅲ	1①・④		1		8	8						○ ○ ○ 自然環境演習Ⅲ	1①・④		1		8	8						
	○ ○ ○ 自然環境演習Ⅳ	1②・⑤		1		8	8						○ ○ ○ 自然環境演習Ⅳ	1②・⑤		1		8	8						
	○ ○ ○ 生態学演習Ⅰ	2①・④		1		8	8						○ ○ ○ 生態学演習Ⅰ (未開講)	2①・④		1		8	8						
	○ ○ ○ 生態学演習Ⅱ	2②・⑤		1		8	8						○ ○ ○ 生態学演習Ⅱ (未開講)	2②・⑤		1		8	8						
	○ ○ ○ 生態学演習Ⅲ	2①・④		1		8	8						○ ○ ○ 生態学演習Ⅲ (未開講)	2①・④		1		8	8						
	○ ○ ○ 生態学演習Ⅳ	2②・⑤		1		8	8						○ ○ ○ 生態学演習Ⅳ (未開講)	2②・⑤		1		8	8						
	○ ○ ○ 地球科学演習Ⅰ	2①・④		1		8	8						○ ○ ○ 地球科学演習Ⅰ (未開講)	2①・④		1		8	8						
	○ ○ ○ 地球科学演習Ⅱ	2②・⑤		1		8	8						○ ○ ○ 地球科学演習Ⅱ (未開講)	2②・⑤		1		8	8						
	○ ○ ○ 地球科学演習Ⅲ	2①・④		1		8	8						○ ○ ○ 地球科学演習Ⅲ (未開講)	2①・④		1		8	8						
	○ ○ ○ 地球科学演習Ⅳ	2②・⑤		1		8	8						○ ○ ○ 地球科学演習Ⅳ (未開講)	2②・⑤		1		8	8						
	○ ○ ○ 環境学術演習Ⅰ	2①・④		1		4	3						○ ○ ○ 環境学術演習Ⅰ (未開講)	2①・④		1		4	3						
	○ ○ ○ 環境学術演習Ⅱ	2②・⑤		1		4	3						○ ○ ○ 環境学術演習Ⅱ (未開講)	2②・⑤		1		4	3						
	○ ○ ○ 環境学術演習Ⅲ	2①・④		1		4	3						○ ○ ○ 環境学術演習Ⅲ (未開講)	2①・④		1		4	3						
	○ ○ ○ 環境学術演習Ⅳ	2②・⑤		1		4	3						○ ○ ○ 環境学術演習Ⅳ (未開講)	2②・⑤		1		4	3						
	ワークショップ	自然環境ワークショップⅠ	1②・⑤	1			8	8						ワークショップ	自然環境ワークショップⅠ	1②・⑤	1			8	8				
		自然環境ワークショップⅡ	2①・④	1			8	8							自然環境ワークショップⅡ (未開講)	2①・④	1			8	8				

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

<p>【開講タームの変更】          担当教員の出張予定により、以下の科目について変更した。          ・「地球システム科学Ⅰ」の開講タームを1・2年次④から1・2年次③に変更。          ・「地球システム科学Ⅱ」の開講タームを1・2年次⑤から1・2年次③に変更。</p>
--

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	77 科目		82 科目	5 科目	77 科目		82 科目	
				[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)



(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><b>該当なし</b></div>
--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{82} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	335,097 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	335,097 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	89,916 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	89,916 m <sup>2</sup>				
	小 計	425,013 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	425,013 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	237,446 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	237,446 m <sup>2</sup>				
	合 計	662,459 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	662,459 m <sup>2</sup>				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	環境情報学府		89 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	部局単位での特定不能なため、大学全体の数	
		環境情報学府 〔附属図書館〕	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)		40 (40)
	計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	15,336 m <sup>2</sup>		1,472 席		1,346,389 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	3,882 m <sup>2</sup>		野球場		テニスコートほか				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	238	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		
人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度		

環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
大学の名称	横浜国立大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
教育学部	年	人	年次人	人		倍		
学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
教育人間科学部								
人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号 平成29年学生募集停止
理工学部								
機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度	平成29年学生募集停止
工学部								
生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号 平成23年学生募集停止
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	平成23年学生募集停止
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	平成23年学生募集停止
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度	平成23年学生募集停止
教育学研究科								
教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
国際社会科学府								
経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度	
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度	
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度	
法曹実務専攻(専門職学位課程)	3	25	-	75	法務博士(専門職)	0.41	平成25年度	
国際社会科学府研究科								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番

グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度	〒201-8501 東京都千代田区千代田4号	平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>									
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

<環境情報学府 自然環境専攻（博士課程前期）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任（予定）年 月>			<就任（予定）年 月>			<就任（予定）年 月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	間嶋 隆一 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 海洋古環境学Ⅰ 海洋古環境学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 地球科学特別講義 地球科学特別実験	専	教授	間嶋 隆一 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 海洋古環境学Ⅰ 海洋古環境学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 地球科学特別講義 地球科学特別実験			
		菊池 知彦 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 海洋システム科学Ⅰ 海洋システム科学Ⅱ			菊池 知彦 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 海洋システム科学Ⅰ 海洋システム科学Ⅱ			

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	自然環境演習Ⅰ
		自然環境演習Ⅱ
		自然環境演習Ⅲ
		自然環境演習Ⅳ
		生態学演習Ⅰ
		生態学演習Ⅱ
		生態学演習Ⅲ
		生態学演習Ⅳ
		地球科学演習Ⅰ
		地球科学演習Ⅱ
		地球科学演習Ⅲ
		地球科学演習Ⅳ
		自然環境ワークショップⅠ
		自然環境ワークショップⅡ
		地球科学特別講義
		地球科学特別実験
		専
＜平成30年4月＞		
持続可能社会とFuture Earth		
環境情報イノベーション演習Ⅰ		
グローバル化演習		
自然環境概論Ⅱ		
野生動物・水産資源管理学		
生態リスクと社会的合意		
自然環境演習Ⅰ		
自然環境演習Ⅱ		
自然環境演習Ⅲ		
自然環境演習Ⅳ		
生態学演習Ⅰ		
生態学演習Ⅱ		
生態学演習Ⅲ		
生態学演習Ⅳ		
地球科学演習Ⅰ		
地球科学演習Ⅱ		
地球科学演習Ⅲ		
地球科学演習Ⅳ		
環境学術演習Ⅰ		

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	自然環境演習Ⅰ
		自然環境演習Ⅱ
		自然環境演習Ⅲ
		自然環境演習Ⅳ
		生態学演習Ⅰ
		生態学演習Ⅱ
		生態学演習Ⅲ
		生態学演習Ⅳ
		地球科学演習Ⅰ
		地球科学演習Ⅱ
		地球科学演習Ⅲ
		地球科学演習Ⅳ
		自然環境ワークショップⅠ
		自然環境ワークショップⅡ
		地球科学特別講義
		地球科学特別実験
		専
＜平成30年4月＞		
持続可能社会とFuture Earth		
環境情報イノベーション演習Ⅰ		
グローバル化演習		
自然環境概論Ⅱ		
野生動物・水産資源管理学		
生態リスクと社会的合意		
自然環境演習Ⅰ		
自然環境演習Ⅱ		
自然環境演習Ⅲ		
自然環境演習Ⅳ		
生態学演習Ⅰ		
生態学演習Ⅱ		
生態学演習Ⅲ		
生態学演習Ⅳ		
地球科学演習Ⅰ		
地球科学演習Ⅱ		
地球科学演習Ⅲ		
地球科学演習Ⅳ		
環境学術演習Ⅰ		

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		環境学術演習Ⅱ 環境学術演習Ⅲ 環境学術演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ
専	教授	小池 文人 ＜平成30年4月＞
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 自然生態系設計学Ⅱ 外来生物問題を解決するモデルと社会 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 環境学術演習Ⅰ 環境学術演習Ⅱ 環境学術演習Ⅲ 環境学術演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 生態学特別講義 生態学特別実験

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		環境学術演習Ⅱ 環境学術演習Ⅲ 環境学術演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ
専	教授	小池 文人 ＜平成30年4月＞
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 自然生態系設計学Ⅱ 外来生物問題を解決するモデルと社会 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 環境学術演習Ⅰ 環境学術演習Ⅱ 環境学術演習Ⅲ 環境学術演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 生態学特別講義 生態学特別実験

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名



専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
専	教授	平塚 和之 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 植物遺伝子工学Ⅰ 植物遺伝子工学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 分子生物学特別講義 分子生物学特別実験
		酒井 暁子 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ <small>ユネスコエコパークや関連制度を活用した環境共生型地域の創出</small> 生態学：進化と環境適応 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
専	教授	平塚 和之 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 植物遺伝子工学Ⅰ 植物遺伝子工学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 分子生物学特別講義 分子生物学特別実験
		酒井 暁子 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ <small>ユネスコエコパークや関連制度を活用した環境共生型地域の創出</small> 生態学：進化と環境適応 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
専	教授	及川 敬貴
		<平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 環境法Ⅰ 環境法Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 環境学術演習Ⅰ 環境学術演習Ⅱ 環境学術演習Ⅲ 環境学術演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ
専	准教授	尾形 信一
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 植物遺伝子機能学Ⅰ 植物遺伝子機能学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
専	教授	及川 敬貴
		<平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 環境法Ⅰ 環境法Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 環境学術演習Ⅰ 環境学術演習Ⅱ 環境学術演習Ⅲ 環境学術演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ
専	准教授	尾形 信一
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 植物遺伝子機能学Ⅰ 植物遺伝子機能学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名
		生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 分子生物学特別講義 分子生物学特別実験
専	准教授	中村 達夫 ＜平成30年4月＞
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 植物分子生理学Ⅰ 植物分子生理学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 分子生物学特別講義 分子生物学特別実験

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名
		生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 分子生物学特別講義 分子生物学特別実験
専	准教授	中村 達夫 ＜平成30年4月＞
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 植物分子生理学Ⅰ 植物分子生理学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 分子生物学特別講義 分子生物学特別実験

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	下出 信次 <平成30年4月>
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 海洋生物環境学Ⅰ 海洋生物環境学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 地球科学特別講義 地球科学特別実験
専	准教授	和仁 良二 <平成30年4月>
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 古生態学Ⅰ 古生態学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	下出 信次 <平成30年4月>
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 海洋生物環境学Ⅰ 海洋生物環境学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 地球科学特別講義 地球科学特別実験
専	准教授	和仁 良二 <平成30年4月>
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 古生態学Ⅰ 古生態学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 地球科学特別講義 地球科学特別実験
		中森 泰三 ＜平成30年4月＞
専	准教授	地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 土壌生物学Ⅰ 土壌生物学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 環境学術演習Ⅰ 環境学術演習Ⅱ 環境学術演習Ⅲ 環境学術演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 地球科学特別講義 地球科学特別実験
		中森 泰三 ＜平成30年4月＞
専	准教授	地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅰ 土壌生物学Ⅰ 土壌生物学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 環境学術演習Ⅰ 環境学術演習Ⅱ 環境学術演習Ⅲ 環境学術演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		生態学特別講義 生態学特別実験
専	准教授	森 章
		＜平成30年4月＞
		地球科学・生態学的手法
		環境情報イノベーション演習Ⅰ
		グローバル化演習
		自然環境概論Ⅰ
		自然生態系設計学Ⅰ
		自然生態系管理学
		自然環境演習Ⅰ
		自然環境演習Ⅱ
		自然環境演習Ⅲ
		自然環境演習Ⅳ
		生態学演習Ⅰ
		生態学演習Ⅱ
		生態学演習Ⅲ
		生態学演習Ⅳ
		地球科学演習Ⅰ
		地球科学演習Ⅱ
		地球科学演習Ⅲ
		地球科学演習Ⅳ
環境学術演習Ⅰ		
環境学術演習Ⅱ		
環境学術演習Ⅲ		
環境学術演習Ⅳ		
自然環境ワークショップⅠ		
自然環境ワークショップⅡ		
生態学特別講義		
生態学特別実験		

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		生態学特別講義 生態学特別実験
専	准教授	森 章
		＜平成30年4月＞
		地球科学・生態学的手法
		環境情報イノベーション演習Ⅰ
		グローバル化演習
		自然環境概論Ⅰ
		自然生態系設計学Ⅰ
		自然生態系管理学
		自然環境演習Ⅰ
		自然環境演習Ⅱ
		自然環境演習Ⅲ
		自然環境演習Ⅳ
		生態学演習Ⅰ
		生態学演習Ⅱ
		生態学演習Ⅲ
		生態学演習Ⅳ
		地球科学演習Ⅰ
		地球科学演習Ⅱ
		地球科学演習Ⅲ
		地球科学演習Ⅳ
環境学術演習Ⅰ		
環境学術演習Ⅱ		
環境学術演習Ⅲ		
環境学術演習Ⅳ		
自然環境ワークショップⅠ		
自然環境ワークショップⅡ		
生態学特別講義		
生態学特別実験		

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	山本 伸次 ＜平成30年4月＞ 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 地球システム物質循環論Ⅰ 地球システム物質循環論Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 地球科学特別講義 地球科学特別実験
		佐々木 雄大 ＜平成30年4月＞ 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 生態系評価学Ⅰ 生態系評価学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	山本 伸次 ＜平成30年4月＞ 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 地球システム物質循環論Ⅰ 地球システム物質循環論Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ 生態学演習Ⅱ 生態学演習Ⅲ 生態学演習Ⅳ 地球科学演習Ⅰ 地球科学演習Ⅱ 地球科学演習Ⅲ 地球科学演習Ⅳ 自然環境ワークショップⅠ 自然環境ワークショップⅡ 地球科学特別講義 地球科学特別実験
		佐々木 雄大 ＜平成30年4月＞ 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 自然環境概論Ⅱ 生態系評価学Ⅰ 生態系評価学Ⅱ 自然環境演習Ⅰ 自然環境演習Ⅱ 自然環境演習Ⅲ 自然環境演習Ⅳ 生態学演習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名





専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼担	教授	鈴木 淳史 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
		田村(細見) 直良 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	教授	根上 生也 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習
		宮崎 隆 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	教授	大谷 裕之 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
		大矢 勝 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼担	教授	西村 尚史 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼担	教授	鈴木 淳史 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
		田村(細見) 直良 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	教授	根上 生也 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習
		宮崎 隆 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼担	教授	大谷 裕之 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
		大矢 勝 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼担	教授	西村 尚史 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名



専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	教授	岡嶋 克典 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
		森 辰則 <平成30年4月> 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習
兼任	教授	山田 貴博 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
		雨宮 隆 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼任	教授	野間 淳 <平成30年4月> 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
		本藤 祐樹 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼任	教授	安本 雅典 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	教授	岡嶋 克典 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
		森 辰則 <平成30年4月> 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習
兼任	教授	山田 貴博 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
		雨宮 隆 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼任	教授	野間 淳 <平成30年4月> 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
		本藤 祐樹 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼任	教授	安本 雅典 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名











専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	牛越 恵理佳
		＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼任	教授	有光 直子
		＜平成30年4月＞ 女性のためのキャリア教育
兼任	教授	志田 基与師
		＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ 高度専門職能とキャリア開発
兼任	教授	金子 信博
		＜平成30年4月＞ 地球科学・生態学的手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ 自然環境概論Ⅰ 土壌生態学Ⅰ 土壌生態学Ⅱ 生態学特別講義 生態学特別実験

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	牛越 恵理佳
		＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習
兼任	教授	有光 直子
		＜平成30年4月＞ 女性のためのキャリア教育
兼任	教授	志田 基与師
		＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ 高度専門職能とキャリア開発
兼任	教授	金子 信博
		＜平成30年4月＞ 地球科学・生態学的手法 環境情報イノベーション演習Ⅰ 自然環境概論Ⅰ 土壌生態学Ⅰ 土壌生態学Ⅱ 生態学特別講義 生態学特別実験

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任, 兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
5	4	2
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
8	8	0	0	16	8	8	0	0	16	8	8	0	0	16
(8)	(8)	(0)	(0)	(16)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
16	0	0			16	0	0			16	0	0		
(16)	(0)	(0)								[ 16 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数**を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{16} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{16} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
<b>該当なし</b>										
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<b>該当なし</b>
-------------

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区分	留意事項等	履行状況	未履行事項についての実施計画
設置時 (29年8月)	授業科目「持続可能社会とFuture Earth」について、科目名称に「Future Earth」を掲げる一方で、授業計画上、Future Earthに係る内容が十分でないように見受けられるため、Future Earthの理念や趣旨に係る学修内容を充実させるとともに、本学府の設置の背景にFuture Earth構想を掲げた趣旨に照らし、本学府の全ての学生が、Future Earthの基本的な理念や趣旨に触れられるよう努めること。【3専攻共通】	「持続可能社会とFuture Earth」は環境情報リテラシー科目の1つである。環境情報リテラシー科目の講義群と環境情報ジェネリックスキル科目の「環境情報イノベーション演習」とリンクさせて、環境情報に関する課題発見の演習をすることになっている。その演習は10名程度の小グループで行われるが、Future Earthの理念を浸透させるために、どのグループにも「持続可能社会とFuture Earth」の受講者が入るように、グループ編成を行うこととした。このような運営を行うために、「環境情報リテラシー科目運営委員会」を設置した。(H30)	左記の取り組みに加え、平成30年度春学期に実施する「持続可能社会とFuture Earth」の講義を撮影した動画を視聴できるよう環境を整え「環境情報イノベーション演習」の受講者に視聴を推奨していく。(H30)
	自然環境専攻の博士前期課程の環境学術プログラムについて、入学選抜において「法学基礎」の分野の筆記試験を課すこととされる一方で、アドミッション・ポリシーにおいては、「法学基礎」の分野に関する基礎知識が求められていることが明確でないため、アドミッション・ポリシーと入学選抜の方法を適切に整合させること。	自然環境専攻(前期)の環境学術プログラムのアドミッションポリシーに、「法学基礎」に関する基礎知識を求めていることを募集要項および本学が発行する「YNU initiative」(下記URL P434参照)に明示し、当該冊子の配布およびホームページに掲載することで周知した。 <a href="http://www.ynu.ac.jp/education/plan/initiative_g.html">http://www.ynu.ac.jp/education/plan/initiative_g.html</a> なお、本学府ホームページのアドミッションポリシーを紹介するページ(下記URL参照)で対応できていなかったため、早急に修正する。 <a href="http://www.eis.ynu.ac.jp/category04/policy.html">http://www.eis.ynu.ac.jp/category04/policy.html</a> <a href="http://www.eis.ynu.ac.jp/category04/overview_M.html">http://www.eis.ynu.ac.jp/category04/overview_M.html</a>	

<p>自然環境専攻の地球科学プログラム及び環境学術プログラムにおける入学者選抜について、筆記試験で選択可能な分野が特定の分野にやや限定されている印象を受けることから、試験問題の選択に柔軟性を持たせるなど、今後、他分野の素養を持つ学生を含めた、より多様な学生を受け入れられるような入学者選抜方法の検討が望まれる。</p>	<p>その他意見</p>	<p>地球科学プログラムでは、学科試験Iの筆記試験を「地球科学プログラムにおける教育分野（地質学、古生物学、生物海洋学、生命科学、生態科学）に関する問題群の中から選択」とし、環境学術プログラムでは、学科試験Iの枠の筆記試験を「環境学術プログラムにおける教育分野（法学基礎、生態科学）に関する問題群の中から選択」として、幅広く入学者を募集できるようにした。（H30）</p>	<p>履行済</p>	
<p>授業科目「グローバル化演習」について、掲げられた到達目標の達成に向けて、各学生に適切なオプション選択を促す指導を始めとした、指導教員グループ及び指導委員会による充実した事前指導、事後指導が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「グローバル化演習」の運営を行うために、「グループ化演習運営委員会」を設置し、指導教員グループが計画した「グローバル化演習」の内容を審査した上で、学府長がそれを承認することとした。それにより、オプション選択の適切さおよび事前指導・事後指導の充実を確認することができるようになっている。（H30）</p>	<p>履行済</p>	
<p>「プレレキジット科目」について、指導教員グループ及び指導委員会による履修計画の調整に当たっては、科目の指定や開講時間の都合等により学生に不利益が生じないよう、適切かつ丁寧な指導が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>平成30年度がスタートする直前に、環境情報学府の教員全員を対象に新カリキュラムの詳細を説明する公聴会を開催した。その際に、「プレレキジット科目」について説明し、基本的には「プレレキジット科目」に頼らない指導計画を立ててもらうが、必要な場合には学生の不利益にならないよう適切な指導をすることを徹底させた。（H30）</p>	<p>履行済</p>	
<p>10月入学生の受入れに際して、各「演習」及び「ワークショップ」については開講時期を見直すことで、開講回数を増やして複数タームでの開講が予定されているが、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「演習」においては、指導教員及び副指導教員の連携・協力のもと実施することで、特定の教員に過度に負担が集中しないよう配慮する。「ワークショップ」については、「ワークショップ運営委員会」を設置し、専攻を越えた日程調整や博士課程後期の学生の配置などを計画することとした。その委員会が、教員の負担が過度にならないようスケジュールを計画して、ワークショップを実行する。（H30）</p>	<p>履行済</p>	

<p>社会人学生の受入れに際して、社会人入学者の勤務の都合に応じて夜間、土曜日、日曜日に開講するなど柔軟な対応が検討されていることは、学生本人にとっては望ましい対応と言える一方で、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないよう配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>社会人学生のうち、官公庁や会社などに在職している者はその長または代表者から「就学承認書」を提出してもらい、在職のままでも就学には支障がない旨を保証してもらっており、基本的に通常の時間帯に受講することになる。したがって、通常は社会人学生に対して特段の対応をする必要はなく、学生の仕事の都合などにより必要な場合は柔軟に対応するが、教員に大きな負担を強いるものではない。なお、博士課程前期の社会人入学者は極めて例外的であり、今年度の博士課程前期の社会人学生は、人工環境専攻の4名だけであり、進学のために2年間を免除されている者、退職者、主婦、無職の留学生であり、一般の学生と同じ研究指導を行うことができている。これまでの実績から推測して、次年度以降も同じような状況が続くと考えられる。今後も上記対応を継続し、教員の負担が過度にならないよう配慮する。 (H30)</p>	<p>履行済</p>
<p>社会人学生の受入れに際して、「設置の趣旨等を記載した書類」においては、博士前期課程の社会人入学者は極めて例外的と想定していることが明示されていないことや、どの程度の授業科目が夜間、土曜日、日曜日開講の対象となるかが明示されていないことなど具体的な受入体制が明確でないことから、社会人の入学希望者に対しては、事前に具体的な受入体制や支援方策等について適切に情報提供を行うことが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「社会人特別選抜学生募集要項」に「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について」というページを設け、修学の条件や履修計画の立て方、演習科目やワークショップの開講時間の個別対応について明記した。 (H30)</p>	<p>履行済</p>
<p>留学生の受入れの促進に向けて、シラバスを英語表記化するなど、留学生に対する学修の支援の充実を図ることが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>現在、HPIにおける平成30年度組織改編の概要、渡日前特別選抜の募集要項、全学留学生用パンフレットについて英語表記のものを用意した。 (H30)</p>	<p>未履行 シラバスと履修手引きの英語表記化は今年度に行う予定である。 (H30)</p>

	海外留学先におけるICTを活用した遠隔指導について、ICTに係る学修環境の違いや時差等、具体的な実施に際しての課題も想定されることから、学生にとって具体的な実施体制が理解しやすいよう実施要領を明文化するなど、事前の履修指導等において適切な情報提供を行うことが望ましい。【3専攻共通】	その他意見	グローバル化演習運営委員会を立ち上げ、海外留学、ショートビジットを希望する学生および指導員からの相談に乗り、その実現方法を協議する体制を整えた。また、本学の授業支援システムを活用して、海外留学やショートビジットを行う上で必要な情報を発信するようにしている。 (H30)	履行済
設置計画履行状況調査時 (31年2月)				
設置計画履行状況調査時 (32年2月)				

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）



## 7 その他全般的事項

<環境情報学府 自然環境専攻（博士課程前期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <h1 style="margin: 0;">該当なし</h1> </div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センター及び、平成30年度に発足した大学院教育強化推進センターが中心となって教員の資質向上、FD活動を行っている。これらのセンターには、教育開発・学修支援部会が置かれ、環境情報学府から1名が部会委員として関わり、学府内でのFD活動をはじめとする資質の維持向上にかかる連絡調整、実施等を担当している。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センター規則

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

(2) 教育開発・学修支援部門

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第13条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(3) 研究科及び各学府の教授会から選出された教員 各1人

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会： 年4～5回

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会： 年4回程度を予定

##### c 委員会の審議事項等

##### ○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会

- ・授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等、
- ・ファカルティ・ディベロップメント 等

##### ○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会

- ・大学院全学教育科目の全学的な総合調整、授業実施計画、カリキュラム編成
- ・大学院の授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ファカルティ・ディベロップメント 等

## ② 実施状況

### a 実施内容

高大接続・全学教育推進センター及び大学院教育強化推進センターが行う活動に学府として協力・実施する予定である。

- ・ FDフォーラムへの参加
- ・ シラバス改善（ループリックの利用等）
- ・ 新任教員のための研修会出席 等

### b 実施方法

- ・ 各内容に即し、全学でコーディネートして実施する予定

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 毎年開催されている新任教員研修会（今年度4月1日開催）に、新規採用教員を参加させている。

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 2018年3月に『「修士力・博士力」を磨くYNU initiative』を策定し、共通理解の基に実施していく。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

### a 実施の有無及び実施時期

- ・ 未定

### b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 未定

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## （3）自己点検・評価等に関する事項

### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画にしたがった学府改組を行い、入試を実施した。（入試倍率：博士課程前期1.1倍、博士課程後期0.7倍）新カリキュラムに対応した履修案内、時間割を作成し、また、学府全教員を対象とした新カリキュラムに係る公聴会を平成30年3月26日に開催し新カリキュラムの内容を確認するとともに、設置計画の着実かつ効果的の実行を目指し、これまでの学務関係を検討する学務委員会の他に新たに「環境情報リテラシー科目運営委員会」「グローバル化演習運営委員会」「ワークショップ運営委員会」を立ち上げ、新カリキュラムに基づく教育を行っている。

### ② 自己点検・評価報告書

#### a 公表（予定）時期

未定

#### b 公表方法

未定

### ③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

- (注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (4) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表(予定)の有無 (  有 ・  無 )
- b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

- (注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
- ・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

## 1 調査対象大学等の概要等

### (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

### (2) 大学名

横浜国立大学

### (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号  
(神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

### (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ネガミ セイヤ) 根上 生也 (平成27年4月)		
専攻長 (情報環境専攻 (博士課程前期))	(オカジマ カツノリ) 岡嶋 克典 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
環境情報学府 情報環境専攻 (博士課程前期)  修士(情報学) 修士(理学) 修士(学術)	理学関係 工学関係	年  2	人  65	人  130	基礎となる学部  理工学部 都市科学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成30年度	平成31年度	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	65人 ( - ) [ - ]	—人 ( - ) [ - ]	65人 ( - ) [ - ]	—人 ( ) [ ]	0.98倍	
志願者数	85 ( - ) [ 16 ]	— ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
受験者数	81 ( - ) [ 15 ]	— ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
合格者数	66 ( - ) [ 5 ]	— ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
B 入学者数	64 ( - ) [ 5 ]	— ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	0.98					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ( )内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ [ ]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	64 [ 5 ] ( - )	— [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/				
計	64 [ 5 ] ( - )		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	64 人	0 人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合計	64 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{64} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<環境情報学府 情報環境専攻（博士課程前期）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	環境情報リテラシー	持続可能社会とFuture Earth	1-2①	1			1					8
		超スマート社会の構築に向けて	1-2④	1			2	3				4
		社会インフラにおけるリスクと安全	1-2①	1			1					8
		安心社会のための福祉・医療	1-2④	1			1					8
		自然災害を考える—過去から未来へ	1-2①	1			1	1	1			5
		イノベーション・マネジメント	1-2④	1			2					7
		地球科学・生態学の手法	1-2①	1								9
		情報学・数理科学の手法	1-2④	1			5	3	1			
	ジェネリックスキル	環境情報イノベーション演習Ⅰ	1-2②	□	1		2	2	1			30
		環境情報イノベーション演習Ⅱ	1-2⑤		1		10	6	1			19
研究者・技術者のための研究倫理		1-2⑤		1		2					3	
高度専門職能とキャリア開発		1-2③		1							1	
	女性のためのキャリア教育	1-2④		1							1	
	グローバル化演習	1-2⑥	1			12	8	2				
科講義	情報環境概論Ⅰ	1-2①	1			6	4	1				
	情報環境概論Ⅱ	1-2②	1			6	4	1				
情報科学	情報科学											
	数理科学											
専門教育科目	情報数学特論Ⅰ	1-2①		1		1	1					
	数理物理シミュレーション特論Ⅰ	1-2①		1			1					
	社会における数理科学特論Ⅰ	1-2①		1		1						
	情報数学特論Ⅱ	1-2②		1		1	1					
	物理モデリングの数理	1-2①		1		1	1					
	数理物理シミュレーション特論Ⅱ	1-2②		1		1	1					
	社会における数理科学特論Ⅱ	1-2②		1		1						
	数値シミュレーションの数理	1-2②		1		1	1					
	情報数学特論Ⅲ	1-2④		1			1	1				
	数理アルゴリズム特論	1-2④		1		1						
	情報数学特論Ⅳ	1-2⑤		1		2						
	数理解析モデリングⅠ	1-2④		1		1	1					
	数理解析モデリングⅡ	1-2④		1		1	1					
	人間情報処理Ⅰ	1-2①		1		2	1					
	言語情報処理基礎論Ⅰ	1-2①		1		2						
	人工知能特論Ⅰ	1-2①		1		1		1				
	セキュリティ情報学Ⅰ	1-2①		1		2	1					
	人間情報処理Ⅱ	1-2②		1		2	1					
	言語情報処理基礎論Ⅱ	1-2②		1		2						
	言語情報応用論Ⅰ	1-2④		1		2						
	マルチメディア情報学Ⅰ	1-2④		1		2	1					
	最適化と探索Ⅰ	1-2④		1		1		1				
	セキュリティ解析Ⅰ	1-2④		1		2	1					
	言語情報応用論Ⅱ	1-2⑤		1		2						
	グラフ理論特論Ⅰ	1-2①		1		2						
	代数幾何学特論Ⅰ	1-2①		1		1	1					
	トポロジー特論Ⅰ	1-2①		1		2						
	離散数学特論Ⅰ	1-2④		1		2						
	数理情報特論Ⅰ	1-2④		1		1	1					
	代数学特論Ⅰ	1-2④		1		1	1					
	解析学特論Ⅰ	1-2④		1				1				
	セキュリティ情報学Ⅱ	1-2①		1		2	1					
	人工知能特論Ⅱ	1-2②		1		1		1				
	セキュリティ情報学応用	1-2②		1		2	1					
	マルチメディア情報学Ⅱ	1-2⑤		1		2	1					
	最適化と探索Ⅱ	1-2⑤		1		1		1				
	セキュリティ解析Ⅱ	1-2⑤		1		2	1					
	グラフ理論特論Ⅱ	1-2②		1		2						
	代数幾何学特論Ⅱ	1-2②		1		1	1					
	トポロジー特論Ⅱ	1-2②		1		2						
離散数学特論Ⅱ	1-2⑤		1		2							
数理情報特論Ⅱ	1-2⑤		1		1	1						
代数学特論Ⅱ	1-2⑤		1		1	1						
解析学特論Ⅱ	1-2⑤		1				1					
理論言語学基礎論Ⅰ	1-2①		1				2					
理論言語学基礎論Ⅱ	1-2②		1				2					



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門講義科目	○理論言語学特論Ⅰ	1・2④		1			2					○理論言語学特論Ⅰ	1・2④		1			2							
	○理論言語学特論Ⅱ	1・2⑤		1			2					○理論言語学特論Ⅱ	1・2⑤		1			2							
専門教育科目 演習	○情報環境演習Ⅰ	1①・④		1		12	8	2				○情報環境演習Ⅰ	1①・④		1		12	8	2						
	○情報環境演習Ⅱ	1②・⑤		1		12	8	2				○情報環境演習Ⅱ	1②・⑤		1		12	8	2						
	○情報環境演習Ⅲ	1①・④		1		12	8	2				○情報環境演習Ⅲ	1①・④		1		12	8	2						
	○情報環境演習Ⅳ	1②・⑤		1		12	8	2				○情報環境演習Ⅳ	1②・⑤		1		12	8	2						
	○情報数学特論演習Ⅰ	1①・④		1		1	1					○情報数学特論演習Ⅰ	1①・④		1		1	1							
	○情報数学特論演習Ⅱ	1②・⑤		1		1	1					○情報数学特論演習Ⅱ	1②・⑤		1		1	1							
	○情報数学特論演習Ⅲ	1①・④		1		1	1	1				○情報数学特論演習Ⅲ	1①・④		1		1	1	1						
	○情報数学特論演習Ⅳ	1②・⑤		1		2						○情報数学特論演習Ⅳ	1②・⑤		1		2								
	○数理物理シミュレーション特論演習Ⅰ	2①・④		1			1					○数理物理シミュレーション特論演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1			1							
	○数理物理シミュレーション特論演習Ⅱ	2②・⑤		1			1					○数理物理シミュレーション特論演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1			1							
	○数理物理シミュレーション特論演習Ⅲ	2①・④		1			1					○数理物理シミュレーション特論演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1			1							
	○数理物理シミュレーション特論演習Ⅳ	2②・⑤		1			1					○数理物理シミュレーション特論演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1			1							
	○社会における数理科学特論演習Ⅰ	2①・④		1			1					○社会における数理科学特論演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		1								
	○社会における数理科学特論演習Ⅱ	2②・⑤		1			1					○社会における数理科学特論演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		1								
	○社会における数理科学特論演習Ⅲ	2①・④		1			1					○社会における数理科学特論演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		1								
	○社会における数理科学特論演習Ⅳ	2②・⑤		1			1					○社会における数理科学特論演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		1								
	○情報学演習Ⅰ	2①・④		1			8	4	1			○情報学演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		8	4	1						
	○情報学演習Ⅱ	2②・⑤		1			8	4	1			○情報学演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		8	4	1						
	○情報学演習Ⅲ	2①・④		1			8	4	1			○情報学演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		8	4	1						
	○情報学演習Ⅳ	2②・⑤		1			8	4	1			○情報学演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		8	4	1						
	○数理科学演習Ⅰ	2①・④		1			5	2	1			○数理科学演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		5	2	1						
	○数理科学演習Ⅱ	2②・⑤		1			5	2	1			○数理科学演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		5	2	1						
	○数理科学演習Ⅲ	2①・④		1			5	2	1			○数理科学演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		5	2	1						
	○数理科学演習Ⅳ	2②・⑤		1			5	2	1			○数理科学演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		5	2	1						
	○離散数学特論演習Ⅰ	2①・④		1			2					○離散数学特論演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		2								
	○離散数学特論演習Ⅱ	2②・⑤		1			2					○離散数学特論演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		2								
	○離散数学特論演習Ⅲ	2①・④		1			2					○離散数学特論演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		2								
	○離散数学特論演習Ⅳ	2②・⑤		1			2					○離散数学特論演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		2								
	○グラフ理論特論演習Ⅰ	2①・④		1			2					○グラフ理論特論演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		2								
	○グラフ理論特論演習Ⅱ	2②・⑤		1			2					○グラフ理論特論演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		2								
	○グラフ理論特論演習Ⅲ	2①・④		1			2					○グラフ理論特論演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		2								
	○グラフ理論特論演習Ⅳ	2②・⑤		1			2					○グラフ理論特論演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		2								
	○数理情報特論演習Ⅰ	2①・④		1			1	1				○数理情報特論演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		1	1							
	○数理情報特論演習Ⅱ	2②・⑤		1			1	1				○数理情報特論演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		1	1							
	○数理情報特論演習Ⅲ	2①・④		1			1	1				○数理情報特論演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		1	1							
	○数理情報特論演習Ⅳ	2②・⑤		1			1	1				○数理情報特論演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		1	1							
	○代数学特論演習Ⅰ	2①・④		1			1	1				○代数学特論演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		1	1							
	○代数学特論演習Ⅱ	2②・⑤		1			1	1				○代数学特論演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		1	1							
	○代数学特論演習Ⅲ	2①・④		1			1	1				○代数学特論演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		1	1							
	○代数学特論演習Ⅳ	2②・⑤		1			1	1				○代数学特論演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		1	1							
	○代数幾何学特論演習Ⅰ	2①・④		1			1	1				○代数幾何学特論演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		1	1							
	○代数幾何学特論演習Ⅱ	2②・⑤		1			1	1				○代数幾何学特論演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		1	1							
	○代数幾何学特論演習Ⅲ	2①・④		1			1	1				○代数幾何学特論演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		1	1							
	○代数幾何学特論演習Ⅳ	2②・⑤		1			1	1				○代数幾何学特論演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		1	1							
	○解析学特論演習Ⅰ	2①・④		1					1			○解析学特論演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1				1						
	○解析学特論演習Ⅱ	2②・⑤		1					1			○解析学特論演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1				1						
○解析学特論演習Ⅲ	2①・④		1					1			○解析学特論演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1				1							
○解析学特論演習Ⅳ	2②・⑤		1					1			○解析学特論演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1				1							
○トポロジー特論演習Ⅰ	2①・④		1			2					○トポロジー特論演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		2									
○トポロジー特論演習Ⅱ	2②・⑤		1			2					○トポロジー特論演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		2									
○トポロジー特論演習Ⅲ	2①・④		1			2					○トポロジー特論演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		2									
○トポロジー特論演習Ⅳ	2②・⑤		1			2					○トポロジー特論演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		2									
○情報学術演習Ⅰ	2①・④		1			1	3				○情報学術演習Ⅰ(未開講)	2①・④		1		1	3								
○情報学術演習Ⅱ	2②・⑤		1			1	3				○情報学術演習Ⅱ(未開講)	2②・⑤		1		1	3								
○情報学術演習Ⅲ	2①・④		1			1	3				○情報学術演習Ⅲ(未開講)	2①・④		1		1	3								
○情報学術演習Ⅳ	2②・⑤		1			1	3				○情報学術演習Ⅳ(未開講)	2②・⑤		1		1	3								
ワークショップ	情報環境ワークショップⅠ	1②・⑤	1			12	8	2				ワークショップ	情報環境ワークショップⅠ	1②・⑤	1		12	8	2						
	情報環境ワークショップⅡ	2①・④	1			12	8	2				情報環境ワークショップⅡ(未開講)	2①・④	1		12	8	2							

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

特になし。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	117 科目	科目	122 科目	5 科目 [ ]	117 科目 [ ]	科目 [ ]	122 科目 [ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><h2 style="margin: 0;">該当なし</h2></div>
---

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{122} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	335,097 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	335,097 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	89,916 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	89,916 m <sup>2</sup>				
	小 計	425,013 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	425,013 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	237,446 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	237,446 m <sup>2</sup>				
	合 計	662,459 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	662,459 m <sup>2</sup>				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	環境情報学府		89 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	部局単位での特定不能なため、大学全体の数	
		環境情報学府 〔附属図書館〕	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)		40 (40)
	計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	15,336 m <sup>2</sup>		1,472 席		1,346,389 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	3,882 m <sup>2</sup>		野球場		テニスコートほか				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	238	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻(専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		
人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度		

環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
大学の名称	横浜国立大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
教育学部	年	人	年次人	人		倍		
学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
教育人間科学部								
人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
理工学部								
機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度	平成29年学生募集停止
工学部								
生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	平成23年学生募集停止
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	平成23年学生募集停止
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度	平成23年学生募集停止
教育学研究科								
教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
国際社会科学府								
経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度	
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度	
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度	
法曹実務専攻(専門職学位課程)	3	25	-	75	法務博士(専門職)	0.41	平成25年度	
国際社会科学府研究科								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番

グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度	〒220-8501 神奈川県横浜市磯子区磯子4号	平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>									
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

<環境情報学府 情報環境専攻（博士課程前期）>

### (1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【平成31年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	額田 順二 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 社会における数理科学特論Ⅰ 社会における数理科学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 社会における数理科学特論演習Ⅰ 社会における数理科学特論演習Ⅱ 社会における数理科学特論演習Ⅲ 社会における数理科学特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		田村（細見） 直良 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 言語情報処理基礎論Ⅰ 言語情報処理基礎論Ⅱ 言語情報応用論Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	額田 順二 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 社会における数理科学特論Ⅰ 社会における数理科学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 社会における数理科学特論演習Ⅰ 社会における数理科学特論演習Ⅱ 社会における数理科学特論演習Ⅲ 社会における数理科学特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		田村（細見） 直良 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 言語情報処理基礎論Ⅰ 言語情報処理基礎論Ⅱ 言語情報応用論Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	言語情報応用論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		根上 生也 <平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅳ 離散数学特論Ⅰ 離散数学特論Ⅱ グラフ理論特論Ⅰ グラフ理論特論Ⅱ トポロジー特論Ⅰ トポロジー特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習Ⅳ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 離散数学特論演習Ⅰ 離散数学特論演習Ⅱ 離散数学特論演習Ⅲ
専	教授	

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	言語情報応用論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		根上 生也 <平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅳ 離散数学特論Ⅰ 離散数学特論Ⅱ グラフ理論特論Ⅰ グラフ理論特論Ⅱ トポロジー特論Ⅰ トポロジー特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習Ⅳ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 離散数学特論演習Ⅰ 離散数学特論演習Ⅱ 離散数学特論演習Ⅲ
専	教授	

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名
		離散数学特論演習Ⅳ グラフ理論特論演習Ⅰ グラフ理論特論演習Ⅱ グラフ理論特論演習Ⅲ グラフ理論特論演習Ⅳ トポロジー特論演習Ⅰ トポロジー特論演習Ⅱ トポロジー特論演習Ⅲ トポロジー特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	教授	西村 尚史 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅳ トポロジー特論Ⅰ トポロジー特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習Ⅳ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ トポロジー特論演習Ⅰ トポロジー特論演習Ⅱ トポロジー特論演習Ⅲ トポロジー特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名
		離散数学特論演習Ⅳ グラフ理論特論演習Ⅰ グラフ理論特論演習Ⅱ グラフ理論特論演習Ⅲ グラフ理論特論演習Ⅳ トポロジー特論演習Ⅰ トポロジー特論演習Ⅱ トポロジー特論演習Ⅲ トポロジー特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	教授	西村 尚史 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅳ トポロジー特論Ⅰ トポロジー特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習Ⅳ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ トポロジー特論演習Ⅰ トポロジー特論演習Ⅱ トポロジー特論演習Ⅲ トポロジー特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	長尾 智晴 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 人間情報処理Ⅰ 人間情報処理Ⅱ マルチメディア情報学Ⅰ マルチメディア情報学Ⅱ 人工知能特論Ⅰ 人工知能特論Ⅱ 最適化と探索Ⅰ 最適化と探索Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		松本 勉 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ セキュリティ情報学Ⅰ セキュリティ情報学Ⅱ セキュリティ情報学応用 セキュリティ解析Ⅰ セキュリティ解析Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	長尾 智晴 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 人間情報処理Ⅰ 人間情報処理Ⅱ マルチメディア情報学Ⅰ マルチメディア情報学Ⅱ 人工知能特論Ⅰ 人工知能特論Ⅱ 最適化と探索Ⅰ 最適化と探索Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		松本 勉 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ セキュリティ情報学Ⅰ セキュリティ情報学Ⅱ セキュリティ情報学応用 セキュリティ解析Ⅰ セキュリティ解析Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	教授	岡嶋 克典 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 人間情報処理Ⅰ 人間情報処理Ⅱ マルチメディア情報学Ⅰ マルチメディア情報学Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		森 辰則 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 言語情報処理基礎論Ⅰ 言語情報処理基礎論Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	教授	岡嶋 克典 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 人間情報処理Ⅰ 人間情報処理Ⅱ マルチメディア情報学Ⅰ マルチメディア情報学Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		森 辰則 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ 科学者・技術者のための研究倫理 グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 言語情報処理基礎論Ⅰ 言語情報処理基礎論Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	言語情報応用論Ⅰ 言語情報応用論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		山田 貴博 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考えるー過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 物理モデリングの数理 数値シミュレーションの数理 数理解析モデリングⅠ 数理解析モデリングⅡ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報学術演習Ⅰ 情報学術演習Ⅱ 情報学術演習Ⅲ 情報学術演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	言語情報応用論Ⅰ 言語情報応用論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		山田 貴博 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考えるー過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 物理モデリングの数理 数値シミュレーションの数理 数理解析モデリングⅠ 数理解析モデリングⅡ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報学術演習Ⅰ 情報学術演習Ⅱ 情報学術演習Ⅲ 情報学術演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	野間 淳 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅱ 代数学特論Ⅰ 代数学特論Ⅱ 代数幾何学特論Ⅰ 代数幾何学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習Ⅱ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 代数学特論演習Ⅰ 代数学特論演習Ⅱ 代数学特論演習Ⅲ 代数学特論演習Ⅳ 代数幾何学特論演習Ⅰ 代数幾何学特論演習Ⅱ 代数幾何学特論演習Ⅲ 代数幾何学特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		中本 敦浩 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	野間 淳 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅱ 代数学特論Ⅰ 代数学特論Ⅱ 代数幾何学特論Ⅰ 代数幾何学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習Ⅱ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 代数学特論演習Ⅰ 代数学特論演習Ⅱ 代数学特論演習Ⅲ 代数学特論演習Ⅳ 代数幾何学特論演習Ⅰ 代数幾何学特論演習Ⅱ 代数幾何学特論演習Ⅲ 代数幾何学特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		中本 敦浩 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名



専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	セキュリティ情報学応用 数理アルゴリズム特論 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	准教授	Martin Roger Andrew ＜平成30年4月＞ 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 理論言語学基盤論Ⅰ 理論言語学基盤論Ⅱ 理論言語学特論Ⅰ 理論言語学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学術演習Ⅰ 情報学術演習Ⅱ 情報学術演習Ⅲ 情報学術演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	セキュリティ情報学応用 数理アルゴリズム特論 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	准教授	Martin Roger Andrew ＜平成30年4月＞ 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 理論言語学基盤論Ⅰ 理論言語学基盤論Ⅱ 理論言語学特論Ⅰ 理論言語学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学術演習Ⅰ 情報学術演習Ⅱ 情報学術演習Ⅲ 情報学術演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	白崎 実
		<平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習 I グローバル化演習 情報環境概論 II 情報数学特論 III 数理物理シミュレーション特論 I 数理物理シミュレーション特論 II 情報環境演習 I 情報環境演習 II 情報環境演習 III 情報環境演習 IV 情報数学特論演習 III 情報学演習 I 情報学演習 II 情報学演習 III 情報学演習 IV 数理物理シミュレーション特論演習 I 数理物理シミュレーション特論演習 II 数理物理シミュレーション特論演習 III 数理物理シミュレーション特論演習 IV 情報環境ワークショップ I 情報環境ワークショップ II
専	准教授	富井 尚志
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習 I グローバル化演習 情報環境概論 I 人間情報処理 I 人間情報処理 II マルチメディア情報学 I マルチメディア情報学 II 情報環境演習 I 情報環境演習 II 情報環境演習 III

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	白崎 実
		<平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習 I グローバル化演習 情報環境概論 II 情報数学特論 III 数理物理シミュレーション特論 I 数理物理シミュレーション特論 II 情報環境演習 I 情報環境演習 II 情報環境演習 III 情報環境演習 IV 情報数学特論演習 III 情報学演習 I 情報学演習 II 情報学演習 III 情報学演習 IV 数理物理シミュレーション特論演習 I 数理物理シミュレーション特論演習 II 数理物理シミュレーション特論演習 III 数理物理シミュレーション特論演習 IV 情報環境ワークショップ I 情報環境ワークショップ II
専	准教授	富井 尚志
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション演習 I グローバル化演習 情報環境概論 I 人間情報処理 I 人間情報処理 II マルチメディア情報学 I マルチメディア情報学 II 情報環境演習 I 情報環境演習 II 情報環境演習 III

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	准教授	藤井 友比呂 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 理論言語学基盤論Ⅰ 理論言語学基盤論Ⅱ 理論言語学特論Ⅰ 理論言語学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学術演習Ⅰ 情報学術演習Ⅱ 情報学術演習Ⅲ 情報学術演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		原下 秀士 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅱ 代数学特論Ⅰ 代数学特論Ⅱ 代数幾何学特論Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	准教授	藤井 友比呂 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 理論言語学基盤論Ⅰ 理論言語学基盤論Ⅱ 理論言語学特論Ⅰ 理論言語学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学術演習Ⅰ 情報学術演習Ⅱ 情報学術演習Ⅲ 情報学術演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		原下 秀士 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅱ 代数学特論Ⅰ 代数学特論Ⅱ 代数幾何学特論Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	代数幾何学特論II
		情報環境演習 I
		情報環境演習 II
		情報環境演習 III
		情報環境演習 IV
		情報数学特論演習 II
		数理科学演習 I
		数理科学演習 II
		数理科学演習 III
		数理科学演習 IV
		代数学特論演習 I
		代数学特論演習 II
		代数学特論演習 III
		代数学特論演習 IV
		代数幾何学特論演習 I
		代数幾何学特論演習 II
		代数幾何学特論演習 III
		代数幾何学特論演習 IV
		情報環境ワークショップ I
		情報環境ワークショップ II
専	准教授	松井 和己
		＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習 II
		グローバル化演習
		情報環境概論 II
		物理モデリングの数理 数値シミュレーションの数理
		数理解析モデリング I
		数理解析モデリング II
		情報環境演習 I
		情報環境演習 II
		情報環境演習 III
		情報環境演習 IV
		情報学演習 I
		情報学演習 II
		情報学演習 III

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	代数幾何学特論II
		情報環境演習 I
		情報環境演習 II
		情報環境演習 III
		情報環境演習 IV
		情報数学特論演習 II
		数理科学演習 I
		数理科学演習 II
		数理科学演習 III
		数理科学演習 IV
		代数学特論演習 I
		代数学特論演習 II
		代数学特論演習 III
		代数学特論演習 IV
		代数幾何学特論演習 I
		代数幾何学特論演習 II
		代数幾何学特論演習 III
		代数幾何学特論演習 IV
		情報環境ワークショップ I
		情報環境ワークショップ II
専	准教授	松井 和己
		＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習 II
		グローバル化演習
		情報環境概論 II
		物理モデリングの数理 数値シミュレーションの数理
		数理解析モデリング I
		数理解析モデリング II
		情報環境演習 I
		情報環境演習 II
		情報環境演習 III
		情報環境演習 IV
		情報学演習 I
		情報学演習 II
		情報学演習 III

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		情報学演習Ⅳ 情報学術演習Ⅰ 情報学術演習Ⅱ 情報学術演習Ⅲ 情報学術演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	准教授	吉岡 克成 ＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ セキュリティ情報学Ⅰ セキュリティ情報学Ⅱ セキュリティ情報学応用 セキュリティ解析Ⅰ セキュリティ解析Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		小関 健太 ＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅰ 数理情報特論Ⅰ 数理情報特論Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
		情報学演習Ⅳ 情報学術演習Ⅰ 情報学術演習Ⅱ 情報学術演習Ⅲ 情報学術演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
専	准教授	吉岡 克成 ＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ セキュリティ情報学Ⅰ セキュリティ情報学Ⅱ セキュリティ情報学応用 セキュリティ解析Ⅰ セキュリティ解析Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		小関 健太 ＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論Ⅰ 数理情報特論Ⅰ 数理情報特論Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名
専	准教授	情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習Ⅰ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 数理情報特論演習Ⅰ 数理情報特論演習Ⅱ 数理情報特論演習Ⅲ 数理情報特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		白川 真一
		＜平成30年4月＞
専	講師	情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 人工知能特論Ⅰ 人工知能特論Ⅱ 最適化と探索Ⅰ 最適化と探索Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名
専	准教授	情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習Ⅰ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 数理情報特論演習Ⅰ 数理情報特論演習Ⅱ 数理情報特論演習Ⅲ 数理情報特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
		白川 真一
		＜平成30年4月＞
専	講師	情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習 情報環境概論Ⅰ 人工知能特論Ⅰ 人工知能特論Ⅱ 最適化と探索Ⅰ 最適化と探索Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報学演習Ⅰ 情報学演習Ⅱ 情報学演習Ⅲ 情報学演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名
		＜就任（予定）年 月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
専	講師	牛越 恵理佳 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論ⅢⅢ 解析学特論Ⅰ 解析学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習ⅢⅢ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 解析学特論演習Ⅰ 解析学特論演習Ⅱ 解析学特論演習ⅢⅢ 解析学特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
兼任	教授	野口 和彦 <平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼任	教授	大谷 英雄 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
専	講師	牛越 恵理佳 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習 情報環境概論Ⅱ 情報数学特論ⅢⅢ 解析学特論Ⅰ 解析学特論Ⅱ 情報環境演習Ⅰ 情報環境演習Ⅱ 情報環境演習Ⅲ 情報環境演習Ⅳ 情報数学特論演習ⅢⅢ 数理科学演習Ⅰ 数理科学演習Ⅱ 数理科学演習Ⅲ 数理科学演習Ⅳ 解析学特論演習Ⅰ 解析学特論演習Ⅱ 解析学特論演習ⅢⅢ 解析学特論演習Ⅳ 情報環境ワークショップⅠ 情報環境ワークショップⅡ
兼任	教授	野口 和彦 <平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション演習Ⅱ グローバル化演習
兼任	教授	大谷 英雄 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション演習Ⅰ グローバル化演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>

















(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
10	7	0
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
12	8	2	0	22	12	8	2	0	22	12	8	2	0	22
(12)	(8)	(2)	(0)	(22)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
22	0	0			22	0	0			22	0	0		
(22)	(0)	(0)								[ 22 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{22}{22} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{22} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|





## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画	
設 置 時 (29年8月)	<p>授業科目「持続可能社会とFuture Earth」について、科目名称に「Future Earth」を掲げる一方で、授業計画上、Future Earthに係る内容が十分でないように見受けられるため、Future Earthの理念や趣旨に係る学修内容を充実させるとともに、本学府の設置の背景にFuture Earth構想を掲げた趣旨に照らし、本学府の全ての学生が、Future Earthの基本的な理念や趣旨に触れられるよう努めること。【3専攻共通】</p>	<p>「持続可能社会とFuture Earth」は環境情報リテラシー科目の1つである。環境情報リテラシー科目の講義群と環境情報ジェネリックスキル科目の「環境情報イノベーション演習」とリンクさせて、環境情報に関する課題発見の演習をすることになっている。その演習は10名程度の小グループで行われるが、Future Earthの理念を浸透させるために、どのグループにも「持続可能社会とFuture Earth」の受講者が入るように、グループ編成を行うこととした。このような運営を行うために、「環境情報リテラシー科目運営委員会」を設置した。(H30)</p>	未履行	<p>左記の取り組みに加え、平成30年度春学期に実施する「持続可能社会とFuture Earth」の講義を撮影した動画を視聴できるような環境を整え「環境情報イノベーション演習」の受講者に視聴を推奨していく。(H30)</p>
	<p>情報環境専攻の博士前期課程の数理科学プログラムの学位授与の基本方針について、「現代数学に関する知識と技能を修得し、それをデータ解析に活用することのできる力量を備えた者に「修士(理学)」を授与する。」とされているが、同プログラムで計画された授業科目では「データ解析に活用することのできる力量を備えるために必要な授業内容が必ずしも十分ではないと考えられることから、補正計画書において説明された「現代数学に精通し、先端的なデータ解析の手法に対しても臆せず学び、理解し、運用できる技量を有した人材を育成する。」といった方針を学位授与の基本方針にも適切に反映させること。</p>	<p>学位授与の基本方針は「YNU initiative」によって学内外に周知(下記URL P441参照)しているが、数理科学プログラムの学位授与基本方針について、補正計画で説明した内容を反映させていなかった。 (H30)</p> <p><a href="http://www.ynu.ac.jp/education/plan/initiative_g.html">http://www.ynu.ac.jp/education/plan/initiative_g.html</a></p>	未履行	<p>「YNU initiative」の当該箇所を早急に修正するとともに、今年度入学者に対して説明の場を設け理解を得ることとする。(H30)</p>

<p>授業科目「グローバル化演習」について、掲げられた到達目標の達成に向けて、各学生に適切なオプション選択を促す指導を始めとした、指導教員グループ及び指導委員会による充実した事前指導、事後指導が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「グローバル化演習」の運営を行うために、「グローバル化演習運営委員会」を設置し、指導教員グループが計画した「グローバル化演習」の内容を審査した上で、学府長がそれを承認することとした。それにより、オプション選択の適切さおよび事前指導・事後指導の充実を確認することができるようになっている。 (H30)</p>	<p>履行済</p>
<p>「プレレキジット科目」について、指導教員グループ及び指導委員会による履修計画の調整に当たっては、科目の指定や開講時間の都合等により学生に不利益が生じないよう、適切かつ丁寧な指導が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>平成30年度がスタートする直前に、環境情報学府の教員全員を対象に新カリキュラムの詳細を説明する公聴会を開催した。その際に、「プレレキジット科目」について説明し、基本的には「プレレキジット科目」に頼らない指導計画を立ててもらうが、必要な場合には学生の不利益にならないよう適切な指導をすることを徹底させた。(H30)</p>	<p>履行済</p>
<p>10月入学生の受入れに際して、各「演習」及び「ワークショップ」については開講時期を見直すことで、開講回数を増やして複数チームでの開講が予定されているが、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「演習」においては、指導教員及び副指導教員の連携・協力のもと実施することで、特定の教員に過度に負担が集中しないよう配慮する。「ワークショップ」については、「ワークショップ運営委員会」を設置し、専攻を越えた日程調整や博士課程後期の学生の配置などを計画することとした。その委員会が、教員の負担が過度にならないようスケジュールを計画して、ワークショップを実行する。(H30)</p>	<p>履行済</p>

<p>社会人学生の受入れに際して、社会人入学者の勤務の都合に応じて夜間、土曜日、日曜日に開講するなど柔軟な対応が検討されていることは、学生本人にとっては望ましい対応と言える一方で、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないよう配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>社会人学生のうち、官公庁や会社などに在職している者はその長または代表者から「就学承認書」を提出してもらい、在職のままでも就学には支障がない旨を保証してもらっており、基本的に通常の時間帯に受講することになる。したがって、通常は社会人学生に対して特段の対応をする必要はなく、学生の仕事の都合などにより必要な場合は柔軟に対応するが、教員に大きな負担を強いるものではない。なお、博士課程前期の社会人入学者は極めて例外的であり、今年度の博士課程前期の社会人学生は、人工環境専攻の4名だけであり、進学のために2年間を免除されている者、退職者、主婦、無職の留学生であり、一般の学生と同じ研究指導を行うことができている。これまでの実績から推測して、次年度以降も同じような状況が続くと考えられる。今後も上記対応を継続し、教員の負担が過度にならないよう配慮する。 (H30)</p>	<p>履行済</p>
<p>社会人学生の受入れに際して、「設置の趣旨等を記載した書類」においては、博士前期課程の社会人入学者は極めて例外的と想定していることが明示されていないことや、どの程度の授業科目が夜間、土曜日、日曜日開講の対象となるかが明示されていないことなど具体的な受入体制が明確でないことから、社会人の入学希望者に対しては、事前に具体的な受入体制や支援方策等について適切に情報提供を行うことが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「社会人特別選抜学生募集要項」に「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について」というページを設け、修学の条件や履修計画の立て方、演習科目やワークショップの開講時間の個別対応について明記した。 (H30)</p>	<p>履行済</p>
<p>留学生の受入れの促進に向けて、シラバスを英語表記化するなど、留学生に対する学修の支援の充実を図ることが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>現在、HPIにおける平成30年度組織改編の概要、渡日前特別選抜の募集要項、全学留学生用パンフレットについて英語表記のものを用意した。 (H30)</p>	<p>未履行 シラバスと履修手引きの英語表記化は今年度に行う予定である。 (H30)</p>

	海外留学先におけるICTを活用した遠隔指導について、ICTに係る学修環境の違いや時差等、具体的な実施に際しての課題も想定されることから、学生にとって具体的な実施体制が理解しやすいよう実施要領を明文化するなど、事前の履修指導等において適切な情報提供を行うことが望ましい。【3専攻共通】	その他意見	グローバル化演習運営委員会を立ち上げ、海外留学、ショートビジットを希望する学生および指導員からの相談に乗り、その実現方法を協議する体制を整えた。また、本学の授業支援システムを活用して、海外留学やショートビジットを行う上で必要な情報を発信するようにしている。 (H30)	履行済	
設置計画履行状況 調査時 (31年2月)					
設置計画履行状況 調査時 (32年2月)					

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

### <環境情報学府 情報環境専攻（博士課程前期）>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
設置の趣旨等を記載した書類 「学位授与の基本方針」および 「学位の種類ごとの授業科目の履修要件」の頁  「現代数学に関する知識と技能を修得し、それをデータ解析に活用することのできる力量を備えた者に「修士（理学）」を授与する。」	留意事項として付された意見に対応し、  「現代数学に精通し、先端的なデータ解析の手法に対しても臆せず学び、理解し、運用できる技量を有した人材を育成する。」へと変更。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

##### ① 実施体制

###### a 委員会の設置状況

横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センター及び、平成30年度に発足した大学院教育強化推進センターが中心となって教員の資質向上、FD活動を行っている。これらのセンターには、教育開発・学修支援部会が置かれ、環境情報学府から1名が部会委員として関わり、学府内でのFD活動をはじめとする資質の維持向上にかかる連絡調整、実施等を担当している。

###### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

###### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人

###### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センター規則

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

(2) 教育開発・学修支援部門

###### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第13条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(3) 研究科及び各学府の教授会から選出された教員 各1人

###### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会： 年4～5回

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会： 年4回程度を予定

###### c 委員会の審議事項等

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会

・ 授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等、

・ ファカルティ・ディベロップメント 等

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会

- ・大学院全学教育科目の全学的な総合調整、授業実施計画、カリキュラム編成
- ・大学院の授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ファカルティ・ディベロップメント 等

## ② 実施状況

### a 実施内容

高大接続・全学教育推進センター及び大学院教育強化推進センターが行う活動に学府として協力・実施する予定である。

- ・ FDフォーラムへの参加
- ・ シラバス改善（ループリックの利用等）
- ・ 新任教員のための研修会出席 等

### b 実施方法

- ・ 各内容に即し、全学でコーディネートして実施する予定

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 毎年開催されている新任教員研修会（今年度4月1日開催）に、新規採用教員を参加させている。

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 2018年3月に『「修士力・博士力」を磨くYNU initiative』を策定し、共通理解の基に実施していく。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

### a 実施の有無及び実施時期

- ・ 未定

### b 教員や学生への公開状況，方法等

- ・ 未定

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## (3) 自己点検・評価等に関する事項

### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画にしたがった学府改組を行い、入試を実施した。（入試倍率：博士課程前期1.1倍、博士課程後期0.7倍）新カリキュラムに対応した履修案内、時間割を作成し、また、学府全教員を対象とした新カリキュラムに係る公聴会を平成30年3月26日に開催し新カリキュラムの内容を確認するとともに、設置計画の着実かつ効果的の実行を目指し、これまでの学務関係を検討する学務委員会の他に新たに「環境情報リテラシー科目運営委員会」「グローバル化演習運営委員会」「ワークショップ運営委員会」を立ち上げ、新カリキュラムに基づく教育を行っている。

### ② 自己点検・評価報告書

#### a 公表（予定）時期

未定

#### b 公表方法

未定

### ③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

- (注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (4) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表(予定)の有無 (  有 ・  無 )
- b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

- (注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。  
・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号  
(神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ネガミ セイヤ) 根上 生也 (平成27年4月)		
専攻長 (人工環境専攻 (博士課程後 期))	(ナカイ サトシ) 中井 里史 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)  
平成30年度に報告する内容 → (30)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
  - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
  - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。



(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
環境情報学府 人工環境専攻 (博士課程後期)  博士(環境学) 博士(工学) 博士(学術)	工学関係	年 3	人 15	人 45	基礎となる学部  理工学部 都市科学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	15人 ( - ) [ - ]	-人	15人 ( - ) [ - ]	-人	15人 ( - ) [ - ]	-人			0.60倍	
志願者数	9 ( 9 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
受験者数	9 ( 9 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
合格者数	9 ( 9 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
B 入学者数	9 ( 9 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
入学定員超過率 B/A	0.60									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	9 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
計	9 [ - ] ( - )		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	9人	0人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合計	9人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<環境情報学府 人工環境専攻（博士課程後期）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任									
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手										
学府共通科目	環境情報リテラシー	持続可能社会とFuture Earth	1-2-3①	1			3	3	1				2	学府共通科目	環境情報リテラシー	持続可能社会とFuture Earth	1-2-3①	1			3	3	1				2					
		超スマート社会の構築に向けて	1-2-3④	1			1	2					6			超スマート社会の構築に向けて	1-2-3④	1			1	2				6						
		社会インフラにおけるリスクと安全	1-2-3①	1			4	2					3			社会インフラにおけるリスクと安全	1-2-3①	1			4	2				3						
		安心社会のための福祉・医療	1-2-3④	1			4	2					3			安心社会のための福祉・医療	1-2-3④	1			4	2				3						
		自然災害を考える—過去から未来へ	1-2-3①	1				2					6			自然災害を考える—過去から未来へ	1-2-3①	1				2				6						
		イノベーション・マネジメント	1-2-3④	1			2	3					4			イノベーション・マネジメント	1-2-3④	1			2	3				4						
		地球科学・生態学的手法	1-2-3①	1									9			地球科学・生態学的手法	1-2-3①	1								9						
		情報学・数理学的手法	1-2-3④	1									9			情報学・数理学的手法	1-2-3④	1								9						
ジェスネリックス	環境情報	環境情報イノベーション特別演習Ⅰ	1-2-3②	1										ジェスネリックス	環境情報	環境情報イノベーション特別演習Ⅰ	1-2-3②	1														
		環境情報イノベーション特別演習Ⅱ	1-2-3⑤	1												環境情報イノベーション特別演習Ⅱ	1-2-3⑤	1														
		グローバル化特別演習	1-2-3⑥	1												グローバル化特別演習	1-2-3⑥	1														
専門教育科目	安全環境工学	社会環境	環境学	安全環境工学特別演習Ⅰ	1①-④	1			12	11	1			専門教育科目	安全環境工学	社会環境	環境学	安全環境工学特別演習Ⅰ	1①-④	1			12	11	1							
					安全環境工学特別演習Ⅱ	1②-⑤	1			12	11	1								安全環境工学特別演習Ⅱ	1②-⑤	1			12	11	1					
					安全環境工学特別演習Ⅲ	1①-④	1			12	11	1								安全環境工学特別演習Ⅲ	1①-④	1			12	11	1					
					安全環境工学特別演習Ⅳ	1②-⑤	1			12	11	1								安全環境工学特別演習Ⅳ	1②-⑤	1			12	11	1					
					安全環境工学特別演習Ⅴ	2①-④	1			12	11	1								安全環境工学特別演習Ⅴ	2①-④	1			12	11	1					
					安全環境工学特別演習Ⅵ	2②-⑤	1			12	11	1								安全環境工学特別演習Ⅵ	2②-⑤	1			12	11	1					
					安全環境工学特別演習Ⅶ	2①-④	1			12	11	1								安全環境工学特別演習Ⅶ	2①-④	1			12	11	1					
					安全環境工学特別演習Ⅷ	2②-⑤	1			12	11	1								安全環境工学特別演習Ⅷ	2②-⑤	1			12	11	1					
					環境学特別演習Ⅰ	1①-④	1			6	7	1								環境学特別演習Ⅰ	1①-④	1			6	7	1					
					環境学特別演習Ⅱ	1②-⑤	1			6	7	1								環境学特別演習Ⅱ	1②-⑤	1			6	7	1					
					環境学特別演習Ⅲ	1①-④	1			6	7	1								環境学特別演習Ⅲ	1①-④	1			6	7	1					
					環境学特別演習Ⅳ	1②-⑤	1			6	7	1								環境学特別演習Ⅳ	1②-⑤	1			6	7	1					
					環境学特別演習Ⅴ	2①-④	1			6	7	1								環境学特別演習Ⅴ	2①-④	1			6	7	1					
					環境学特別演習Ⅵ	2②-⑤	1			6	7	1								環境学特別演習Ⅵ	2②-⑤	1			6	7	1					
					環境学特別演習Ⅶ	2①-④	1			6	7	1								環境学特別演習Ⅶ	2①-④	1			6	7	1					
					環境学特別演習Ⅷ	2②-⑤	1			6	7	1								環境学特別演習Ⅷ	2②-⑤	1			6	7	1					
					社会環境特別演習Ⅰ	1①-④	1			5	5									社会環境特別演習Ⅰ	1①-④	1			5	5						
					社会環境特別演習Ⅱ	1②-⑤	1			5	5									社会環境特別演習Ⅱ	1②-⑤	1			5	5						
					社会環境特別演習Ⅲ	1①-④	1			5	5									社会環境特別演習Ⅲ	1①-④	1			5	5						
					社会環境特別演習Ⅳ	1②-⑤	1			5	5									社会環境特別演習Ⅳ	1②-⑤	1			5	5						
					社会環境特別演習Ⅴ	2①-④	1			5	5									社会環境特別演習Ⅴ	2①-④	1			5	5						
					社会環境特別演習Ⅵ	2②-⑤	1			5	5									社会環境特別演習Ⅵ	2②-⑤	1			5	5						
					社会環境特別演習Ⅶ	2①-④	1			5	5									社会環境特別演習Ⅶ	2①-④	1			5	5						
					社会環境特別演習Ⅷ	2②-⑤	1			5	5									社会環境特別演習Ⅷ	2②-⑤	1			5	5						
					ワークショップ	人工環境特別ワークショップⅠ	1②-⑤	1			14	14	1									ワークショップ	人工環境特別ワークショップⅠ	1②-⑤	1			14	14	1		
							人工環境特別ワークショップⅡ	2①-④	1			14	14						1					人工環境特別ワークショップⅡ	2①-④	1			14	14	1	

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

特になし。
-------

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	34 科目	科目	37 科目	3 科目 [ ]	34 科目 [ ]	科目 [ ]	37 科目 [ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1			<b>該当なし</b>			
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1			<b>該当なし</b>			
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<b>該当なし</b>
-------------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{37} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	335,097 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	335,097 m <sup>2</sup>			
	運動場用地	89,916 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	89,916 m <sup>2</sup>			
	小 計	425,013 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	425,013 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	237,446 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	237,446 m <sup>2</sup>			
	合 計	662,459 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	662,459 m <sup>2</sup>			
(2) 校 舎	専 用	175,694 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	計			
	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	環境情報学府			89 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	部局単位での特定不能なため、大学全体の数
		[うち外国書]	[うち外国書]					
	冊	種	種	点	点	点		
	環境情報学府 [附属図書館]	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)	
計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	15,336 m <sup>2</sup>		1,472 席		1,346,389 冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	3,882 m <sup>2</sup>		野球場		テニスコートほか			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	238	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻(専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		
人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度		



環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
大学の名称	横浜国立大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定学員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
教育学部	年	人	年次人	人		倍		
学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
教育人間科学部								
人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
理工学部								
機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度	平成29年学生募集停止
工学部								
生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度	
教育学研究科								
教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
国際社会科学府								
経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度	
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度	
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度	
法曹実務専攻(専門職学位課程)	3	25	-	75	法務博士(専門職)	0.41	平成25年度	
国際社会科学府研究科								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番

グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度	〒220-8501 神奈川県横浜市磯子区磯子4号	平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>									
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

<環境情報学府 人工環境専攻（博士課程後期）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【平成31年度】

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名		
		<就任(予定)年月>		
		担当授業科目名		
専	教授	大谷 英雄 <平成30年4月>		
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習 I 安全環境工学特別演習 II 安全環境工学特別演習 III 安全環境工学特別演習 IV 安全環境工学特別演習 V 安全環境工学特別演習 VI 安全環境工学特別演習 VII 安全環境工学特別演習 VIII 人工環境特別ワークショップ I 人工環境特別ワークショップ II		
		本田 清 <平成30年4月>		
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習 I 安全環境工学特別演習 II 安全環境工学特別演習 III 安全環境工学特別演習 IV 安全環境工学特別演習 V 安全環境工学特別演習 VI 安全環境工学特別演習 VII 安全環境工学特別演習 VIII 人工環境特別ワークショップ I 人工環境特別ワークショップ II		
		鈴木 淳史 <平成30年4月>		
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習 II グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習 I 安全環境工学特別演習 II 安全環境工学特別演習 III 安全環境工学特別演習 IV 安全環境工学特別演習 V 安全環境工学特別演習 VI 安全環境工学特別演習 VII 安全環境工学特別演習 VIII		

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名		
		<就任(予定)年月>		
		担当授業科目名		
専	教授	大谷 英雄 <平成30年4月>		
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習 I 安全環境工学特別演習 II 安全環境工学特別演習 III 安全環境工学特別演習 IV 安全環境工学特別演習 V 安全環境工学特別演習 VI 安全環境工学特別演習 VII 安全環境工学特別演習 VIII 人工環境特別ワークショップ I 人工環境特別ワークショップ II		
		本田 清 <平成30年4月>		
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習 I 安全環境工学特別演習 II 安全環境工学特別演習 III 安全環境工学特別演習 IV 安全環境工学特別演習 V 安全環境工学特別演習 VI 安全環境工学特別演習 VII 安全環境工学特別演習 VIII 人工環境特別ワークショップ I 人工環境特別ワークショップ II		
		鈴木 淳史 <平成30年4月>		
		安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習 II グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習 I 安全環境工学特別演習 II 安全環境工学特別演習 III 安全環境工学特別演習 IV 安全環境工学特別演習 V 安全環境工学特別演習 VI 安全環境工学特別演習 VII 安全環境工学特別演習 VIII		

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
専	教授	三宅 淳巳 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
		中井 里史 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ 社会環境特別演習Ⅵ 社会環境特別演習Ⅶ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
専	教授	三宅 淳巳 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
		中井 里史 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ 社会環境特別演習Ⅵ 社会環境特別演習Ⅶ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ 社会環境特別演習Ⅵ 社会環境特別演習Ⅶ 社会環境特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
		安本 雅典 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ 社会環境特別演習Ⅵ 社会環境特別演習Ⅶ 社会環境特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
		安本 雅典 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		社会環境特別演習VI 社会環境特別演習VII 社会環境特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
専	教授	松本 真哉 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 環境学特別演習I 環境学特別演習II 環境学特別演習III 環境学特別演習IV 環境学特別演習V 環境学特別演習VI 環境学特別演習VII 環境学特別演習VIII 安全環境工学特別演習I 安全環境工学特別演習II 安全環境工学特別演習III 安全環境工学特別演習IV 安全環境工学特別演習V 安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII 安全環境工学特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
		中野 健 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習I 安全環境工学特別演習II 安全環境工学特別演習III 安全環境工学特別演習IV 安全環境工学特別演習V 安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII 安全環境工学特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
		岡 泰資 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		社会環境特別演習VI 社会環境特別演習VII 社会環境特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
専	教授	松本 真哉 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 環境学特別演習I 環境学特別演習II 環境学特別演習III 環境学特別演習IV 環境学特別演習V 環境学特別演習VI 環境学特別演習VII 環境学特別演習VIII 安全環境工学特別演習I 安全環境工学特別演習II 安全環境工学特別演習III 安全環境工学特別演習IV 安全環境工学特別演習V 安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII 安全環境工学特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
		中野 健 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習I 安全環境工学特別演習II 安全環境工学特別演習III 安全環境工学特別演習IV 安全環境工学特別演習V 安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII 安全環境工学特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
		岡 泰資 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名





専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		社会環境特別演習V 社会環境特別演習VI 社会環境特別演習VII 社会環境特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
専	准教授	小林 剛 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 環境学特別演習I 環境学特別演習II 環境学特別演習III 環境学特別演習IV 環境学特別演習V 環境学特別演習VI 環境学特別演習VII 環境学特別演習VIII 安全環境工学特別演習I 安全環境工学特別演習II 安全環境工学特別演習III 安全環境工学特別演習IV 安全環境工学特別演習V 安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII 安全環境工学特別演習VIII 社会環境特別演習I 社会環境特別演習II 社会環境特別演習III 社会環境特別演習IV 社会環境特別演習V 社会環境特別演習VI 社会環境特別演習VII 社会環境特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
		田中 良巳 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習I 安全環境工学特別演習II 安全環境工学特別演習III 安全環境工学特別演習IV 安全環境工学特別演習V 安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		社会環境特別演習V 社会環境特別演習VI 社会環境特別演習VII 社会環境特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
専	准教授	小林 剛 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 環境学特別演習I 環境学特別演習II 環境学特別演習III 環境学特別演習IV 環境学特別演習V 環境学特別演習VI 環境学特別演習VII 環境学特別演習VIII 安全環境工学特別演習I 安全環境工学特別演習II 安全環境工学特別演習III 安全環境工学特別演習IV 安全環境工学特別演習V 安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII 安全環境工学特別演習VIII 社会環境特別演習I 社会環境特別演習II 社会環境特別演習III 社会環境特別演習IV 社会環境特別演習V 社会環境特別演習VI 社会環境特別演習VII 社会環境特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
		田中 良巳 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 安全環境工学特別演習I 安全環境工学特別演習II 安全環境工学特別演習III 安全環境工学特別演習IV 安全環境工学特別演習V 安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	荒牧 賢治 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
		鳴海 大典 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ 社会環境特別演習Ⅵ 社会環境特別演習Ⅶ 社会環境特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	荒牧 賢治 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
		鳴海 大典 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ 社会環境特別演習Ⅵ 社会環境特別演習Ⅶ 社会環境特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名





専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	遠藤 聡 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 環境学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ 社会環境特別演習Ⅵ 社会環境特別演習Ⅶ 社会環境特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
		藤井 麻樹子 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ 安全環境工学特別演習Ⅵ 安全環境工学特別演習Ⅶ 安全環境工学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	遠藤 聡 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 環境学特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅰ 社会環境特別演習Ⅱ 社会環境特別演習Ⅲ 社会環境特別演習Ⅳ 社会環境特別演習Ⅴ 社会環境特別演習Ⅵ 社会環境特別演習Ⅶ 社会環境特別演習Ⅷ 社会環境特別演習Ⅷ 人工環境特別ワークショップⅠ 人工環境特別ワークショップⅡ
		藤井 麻樹子 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 環境学特別演習Ⅰ 環境学特別演習Ⅱ 環境学特別演習Ⅲ 環境学特別演習Ⅳ 環境学特別演習Ⅴ 環境学特別演習Ⅵ 環境学特別演習Ⅶ 環境学特別演習Ⅷ 環境学特別演習Ⅷ 安全環境工学特別演習Ⅰ 安全環境工学特別演習Ⅱ 安全環境工学特別演習Ⅲ 安全環境工学特別演習Ⅳ 安全環境工学特別演習Ⅴ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	講師	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	講師	

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII 安全環境工学特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
兼任	教授	額田 順二 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習
		間嶋 隆一 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習
兼任	教授	菊池 知彦 ＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習
		田村（細見）直良 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習
兼任	教授	根上 生也 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習
		西村 尚史 ＜平成30年4月＞ 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習
兼任	教授	松田 裕之 ＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習
		長尾 智晴 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		安全環境工学特別演習VI 安全環境工学特別演習VII 安全環境工学特別演習VIII 人工環境特別ワークショップI 人工環境特別ワークショップII
兼任	教授	額田 順二 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習
		間嶋 隆一 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習
兼任	教授	菊池 知彦 ＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習
		田村（細見）直良 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習
兼任	教授	根上 生也 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習
		西村 尚史 ＜平成30年4月＞ 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習
兼任	教授	松田 裕之 ＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習
		長尾 智晴 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 担当授業科目名
兼任	教授	松本 勉 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		小池 文人 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	平塚 和之 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		岡嶋 克典 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	森 辰則 ＜平成30年4月＞ 情報学・数理科学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
		山田 貴博 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	酒井 暁子 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		野間 淳 ＜平成30年4月＞ 情報学・数理科学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	石川 正弘 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 担当授業科目名
兼任	教授	松本 勉 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		小池 文人 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	平塚 和之 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		岡嶋 克典 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	森 辰則 ＜平成30年4月＞ 情報学・数理科学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
		山田 貴博 ＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	酒井 暁子 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		野間 淳 ＜平成30年4月＞ 情報学・数理科学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	石川 正弘 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 担当授業科目名









(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時における 設置基準上の必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
5 名	4 名	2 名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文科省告示第七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
14	14	1	0	29	14	14	1	0	29	14	14	1	0	29
(14)	(14)	(1)	(0)	(29)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
29	0	0			29	0	0			29	0	0		
(29)	(0)	(0)								[ 29 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・ 「**現在(報告書提出時)の完成年度時の計画**」には、「**現在(報告書提出時)の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ 1)

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告書提出時)の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{29}{29} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在(報告書提出時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告書提出時)の状況(B)}} = \frac{0}{29} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|



## 6 留意事項等に対する履行状況等

区分	留意事項等	履行状況	未履行事項についての実施計画	
設置時 (29年8月)	<p>授業科目「持続可能社会とFuture Earth」について、科目名称に「Future Earth」を掲げる一方で、授業計画上、Future Earthに係る内容が十分でないように見受けられるため、Future Earthの理念や趣旨に係る学修内容を充実させるとともに、本学府の設置の背景にFuture Earth構想を掲げた趣旨に照らし、本学府の全ての学生が、Future Earthの基本的な理念や趣旨に触れられるよう努めること。【3専攻共通】</p>	<p>「持続可能社会とFuture Earth」は環境情報リテラシー科目の1つである。環境情報リテラシー科目の講義群と環境情報ジェネリックスキル科目の「環境情報イノベーション特別演習」とリンクさせて、環境情報に関わる課題発見の演習をすることになっている。その特別演習では、博士課程前期の学生10名程度の小グループの世話役を務めるように博士課程後期の学生が割り当てられる。Future Earthの理念を浸透させるために、どのグループにも「持続可能社会とFuture Earth」の受講者が入るように、グループ編成を行うこととした。このような運営を行うために、「環境情報リテラシー科目運営委員会」を設置した。(H30)</p>	未履行	<p>左記の取り組みに加え、平成30年度春学期に実施する「持続可能社会とFuture Earth」の講義を撮影した動画を視聴できるよう環境を整え「環境情報イノベーション演習」の受講者に視聴を推奨していく。(H30)</p>
	<p>授業科目「グローバル化特別演習」について、掲げられた到達目標の達成に向けて、各学生に適切なオプション選択を促す指導を始めとした、指導教員グループ及び指導委員会による充実した事前指導、事後指導が望まれる。【3専攻共通】</p>	<p>「グローバル化演習」と合わせて「グローバル化特別演習」の運営を行うために、「グループ化演習運営委員会」を設置し、指導委員会が計画した「グローバル化特別演習」の内容を審査した上で、学府長がそれを承認することとした。それにより、オプション選択の適切さおよび事前指導・事後指導の充実を確認することができるようになっている。(H30)</p>	履行済	
	<p>「プレレキジット科目」について、指導教員グループ及び指導委員会による履修計画の調整に当たっては、科目の指定や開講時間の都合等により学生に不利益が生じないよう、適切かつ丁寧な指導が望まれる。【3専攻共通】</p>	<p>平成30年度がスタートする直前に、環境情報学府の教員全員を対象に新カリキュラムの詳細を説明する公聴会を開催した。その際に、「プレレキジット科目」について説明し、基本的には「プレレキジット科目」に頼らない指導計画を立ててもらうが、必要な場合には学生の不利益にならないよう適切な指導をすることを徹底させた。(H30)</p>	履行済	

<p>10月入学生の受入れに際して、各「演習」及び「ワークショップ」については開講時期を見直すことで、開講回数を増やして複数タームでの開講が予定されているが、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「演習」においては、指導教員及び副指導教員の連携・協力のもと実施することで、特定の教員に過度に負担が集中しないよう配慮する。「ワークショップ」については、「ワークショップ運営委員会」を設置し、専攻を越えた日程調整や博士課程後期の学生の配置などを計画することとした。その委員会が、教員の負担が過度にならないようにスケジュールを計画して、ワークショップを実行する。(H30)</p>	<p>履行済</p>	
<p>社会人学生の受入れに際して、社会人入学者の勤務の都合に応じて夜間、土曜日、日曜日に開講するなど柔軟な対応が検討されていることは、学生本人にとっては望ましい対応と言える一方で、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「環境情報イノベーション演習」の開講は柔軟なスケジュールリングを想定しており、夜間や土日に当該演習を開講することを最小限にできるよう配慮し、学生の利益とのバランスを取りながら運用している。(H30)</p>	<p>未履行</p>	<p>「環境情報リテラシー科目」について、今年度開講分をビデオ録画し、次年度に「授業支援システム」を使ってe-ラーニングで学べる体制を構築中であり、次年度以降、通常の時間帯で受講できない学生向けに、当該講義を夜間や土日に開講する状況を抑制することが期待される。(H30)</p>
<p>社会人学生の受入れに際して、「設置の趣旨等を記載した書類」においては、博士前期課程の社会人入学者は極めて例外的と想定していることが明示されていないことや、どの程度の授業科目が夜間、土曜日、日曜日開講の対象となるかが明示されていないことなど具体的な受入体制が明確でないことから、社会人の入学希望者に対しては、事前に具体的な受入体制や支援方策等について適切に情報提供を行うことが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「社会人特別選抜学生募集要項」に「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について」というページを設け、修学の条件や履修計画の立て方、演習科目やワークショップの開講時間の個別対応について明記した。(H30)</p>	<p>履行済</p>	
<p>留学生の受入れの促進に向けて、シラバスを英語表記化するなど、留学生に対する学修の支援の充実を図ることが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>現在、HPにおける平成30年度組織改編の概要、渡日前特別選抜の募集要項、全学留学生用パンフレットについて英語表記のものを用意した。(H30)</p>	<p>未履行</p>	<p>シラバスと履修手引きの英語表記化は今年度に行う予定である。(H30)</p>



	海外留学先におけるICTを活用した遠隔指導について、ICTに係る学修環境の違いや時差等、具体的な実施に際しての課題も想定されることから、学生にとって具体的な実施体制が理解しやすいよう実施要領を明文化するなど、事前の履修指導等において適切な情報提供を行うことが望ましい。【3専攻共通】	その他意見	グローバル化演習運営委員会を立ち上げ、海外留学、ショートビジットを希望する学生および指導員からの相談に乗り、その実現方法を協議する体制を整えた。また、本学の授業支援システムを活用して、海外留学やショートビジットを行う上で必要な情報を発信するようにしている。 (H30)	履行済	
設置計画履行状況 調査時 (31年2月)					
設置計画履行状況 調査時 (32年2月)					

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<環境情報学府 人工環境専攻（博士課程後期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; display: inline-block; font-size: 2em; font-weight: bold;">該当なし</div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センター及び、平成30年度に発足した大学院教育強化推進センターが中心となって教員の資質向上、FD活動を行っている。これらのセンターには、教育開発・学修支援部会が置かれ、環境情報学府から1名が部会委員として関わり、学府内でのFD活動をはじめとする資質の維持向上にかかる連絡調整、実施等を担当している。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センター規則

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

(2) 教育開発・学修支援部門

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第13条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(3) 研究科及び各学府の教授会から選出された教員 各1人

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会： 年4～5回

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会： 年4回程度を予定

##### c 委員会の審議事項等

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会

- ・ 授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等、
- ・ ファカルティ・ディベロップメント 等

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会

- ・ 大学院全学教育科目の全学的な総合調整、授業実施計画、カリキュラム編成
- ・ 大学院の授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ ファカルティ・ディベロップメント 等

## ② 実施状況

### a 実施内容

高大接続・全学教育推進センター及び大学院教育強化推進センターが行う活動に学府として協力・実施する予定である。

- ・ FDフォーラムへの参加
- ・ シラバス改善（ループリックの利用等）
- ・ 新任教員のための研修会出席 等

### b 実施方法

- ・ 各内容に即し、全学でコーディネートして実施する予定

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 毎年開催されている新任教員研修会（今年度4月1日開催）に、新規採用教員を参加させている。

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 2018年3月に『「修士力・博士力」を磨くYNU initiative』を策定し、共通理解の基に実施していく。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

### a 実施の有無及び実施時期

- ・ 未定

### b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 未定

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## （3）自己点検・評価等に関する事項

### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画にしたがった学府改組を行い、入試を実施した。（入試倍率：博士課程前期1.1倍、博士課程後期0.7倍）新カリキュラムに対応した履修案内、時間割を作成し、また、学府全教員を対象とした新カリキュラムに係る公聴会を平成30年3月26日に開催し新カリキュラムの内容を確認するとともに、設置計画の着実かつ効果的の実行を目指し、これまでの学務関係を検討する学務委員会の他に新たに「環境情報リテラシー科目運営委員会」「グローバル化演習運営委員会」「ワークショップ運営委員会」を立ち上げ、新カリキュラムに基づく教育を行っている。

### ② 自己点検・評価報告書

#### a 公表（予定）時期

未定

#### b 公表方法

未定

### ③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

- (注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (4) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表（予定）の有無 （  有 ・  無 ）
- b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 （ 平成30年7月1日 ）

- (注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
- ・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号  
(神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ネガミ セイヤ) 根上 生也 (平成27年4月)		
専攻長 (自然環境専攻 (博士課程後 期))	(イシカワ マサヒロ) 石川 正弘 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)  
平成30年度に報告する内容 → (30)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
  - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
  - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
環境情報学府 自然環境専攻 (博士課程後期)  博士(環境学) 博士(理学) 博士(学術)	理学関係	年 3	人 6	人 18	基礎となる学部  理工学部 都市科学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	6人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	6人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	6人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]			0.50倍	
志願者数	3 ( 1 ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]								
受験者数	3 ( 1 ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]								
合格者数	3 ( 1 ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]								
B 入学者数	3 ( 1 ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]								
入学定員超過率 B/A	0.50									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	3 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )			
計	3 [ 1 ] ( - )		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	3人	0人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合計	3人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



## 2 授業科目の概要

<環境情報学府 自然環境専攻（博士課程後期）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
学府共通科目	環境情報リテラシー	持続可能社会とFuture Earth	1-2-3①	1		1						8		
		超スマート社会の構築に向けて	1-2-3④	1								9		
		社会インフラにおけるリスクと安全	1-2-3①	1			2					7		
		安心社会のための福祉・医療	1-2-3④	1				1				8		
		自然災害を考える—過去から未来へ	1-2-3①	1				3				5		
		イノベーション・マネジメント	1-2-3④	1				1				8		
		地球科学・生態学的手法	1-2-3①	1				1	7			1		
		情報学・数理科学的手法	1-2-3④	1								9		
	ジェスネリツク	環境情報イノベーション特別演習Ⅰ	1-2-3②		1		7	7				21		
		環境情報イノベーション特別演習Ⅱ	1-2-3⑤		1		1	1				34		
	グローバル化特別演習	1-2-3⑥	1			8	8							
専門教育科目	環境学術 地球科学 生態学	生態学特別演習Ⅰ	1①-④	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅱ	1②-⑤	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅲ	1①-④	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅳ	1②-⑤	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅴ	2①-④	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅵ	2②-⑤	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅶ	2①-④	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅷ	2②-⑤	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅰ	1①-④	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅱ	1②-⑤	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅲ	1①-④	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅳ	1②-⑤	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅴ	2①-④	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅵ	2②-⑤	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅶ	2①-④	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅷ	2②-⑤	1		7	8							
		環境学術特別演習Ⅰ	1①-④	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅱ	1②-⑤	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅲ	1①-④	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅳ	1②-⑤	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅴ	2①-④	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅵ	2②-⑤	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅶ	2①-④	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅷ	2②-⑤	1		4	3							
		ワークショップ	自然環境特別ワークショップⅠ	1②-⑤	1			8	8					
			自然環境特別ワークショップⅡ	2①-④	1			8	8					
		学府共通科目	環境情報リテラシー	持続可能社会とFuture Earth	1-2-3①	1		1						8
				超スマート社会の構築に向けて	1-2-3④	1								9
社会インフラにおけるリスクと安全	1-2-3①			1			2					7		
安心社会のための福祉・医療	1-2-3④			1				1				8		
自然災害を考える—過去から未来へ	1-2-3①			1				3				5		
イノベーション・マネジメント	1-2-3④			1				1				8		
地球科学・生態学的手法	1-2-3①			1				1	7			1		
情報学・数理科学的手法	1-2-3④			1								9		
ジェスネリツク	環境情報イノベーション特別演習Ⅰ		1-2-3②		1		7	7				21		
	環境情報イノベーション特別演習Ⅱ		1-2-3⑤		1		1	1				34		
	グローバル化特別演習	1-2-3⑥	1			8	8							
専門教育科目	環境学術 地球科学 生態学	生態学特別演習Ⅰ	1①-④	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅱ	1②-⑤	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅲ	1①-④	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅳ	1②-⑤	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅴ	2①-④	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅵ	2②-⑤	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅶ	2①-④	1		7	8							
		生態学特別演習Ⅷ	2②-⑤	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅰ	1①-④	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅱ	1②-⑤	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅲ	1①-④	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅳ	1②-⑤	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅴ	2①-④	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅵ	2②-⑤	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅶ	2①-④	1		7	8							
		地球科学特別演習Ⅷ	2②-⑤	1		7	8							
		環境学術特別演習Ⅰ	1①-④	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅱ	1②-⑤	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅲ	1①-④	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅳ	1②-⑤	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅴ	2①-④	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅵ	2②-⑤	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅶ	2①-④	1		4	3							
		環境学術特別演習Ⅷ	2②-⑤	1		4	3							
		ワークショップ	自然環境特別ワークショップⅠ	1②-⑤	1			8	8					
			自然環境特別ワークショップⅡ	2①-④	1			8	8					

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

特になし。
-------

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	34 科目	科目	37 科目	3 科目 [ ]	34 科目 [ ]	科目 [ ]	37 科目 [ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<table border="1"><tr><td style="text-align: center;"><b>該当なし</b></td></tr></table>	<b>該当なし</b>
<b>該当なし</b>	

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{37} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	335,097 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	335,097 m <sup>2</sup>			
	運動場用地	89,916 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	89,916 m <sup>2</sup>			
	小 計	425,013 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	425,013 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	237,446 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	237,446 m <sup>2</sup>			
	合 計	662,459 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	662,459 m <sup>2</sup>			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	環境情報学府		89 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	部局単位での特定不能なため、大学全体の数
		[うち外国書]	[うち外国書]					
	環境情報学府 [附属図書館]	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)	
	計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	15,336 m <sup>2</sup>		1,472 席		1,346,389 冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	3,882 m <sup>2</sup>		野球場		テニスコートほか			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	238	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻(専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		
人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度		

環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
大学の名称	横浜国立大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
教育学部	年	人	年次 人	人		倍		
学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
教育人間科学部								
人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
理工学部								
機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度	平成29年学生募集停止
工学部								
生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	平成23年学生募集停止
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	平成23年学生募集停止
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度	平成23年学生募集停止
教育学研究科								
教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
国際社会科学府								
経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度	
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度	
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度	
法曹実務専攻(専門職学位課程)	3	25	-	75	法務博士(専門職)	0.41	平成25年度	
国際社会科学府研究科								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番

グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度	〒220-8501 神奈川県横浜市磯子区磯子4号	平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>									
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<環境情報学府 自然環境専攻（博士課程後期）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【平成31年度】

【平成32年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
		担当授業科目名
専	教授	間嶋 隆一
		<平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ
		環境情報イノベーション特別演習 I
		グローバル化特別演習
		生態学特別演習 I
		生態学特別演習 II
		生態学特別演習 III
		生態学特別演習 IV
		生態学特別演習 V
		生態学特別演習 VI
		生態学特別演習 VII
		生態学特別演習 VIII
		地球科学特別演習 I
		地球科学特別演習 II
		地球科学特別演習 III
		地球科学特別演習 IV
		地球科学特別演習 V
		地球科学特別演習 VI
		地球科学特別演習 VII
地球科学特別演習 VIII		
自然環境特別ワークショップ I		
自然環境特別ワークショップ II		
専	教授	菊池 知彦
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth
		地球科学・生態学の手法
		環境情報イノベーション特別演習 I
		グローバル化特別演習
		生態学特別演習 I
		生態学特別演習 II
		生態学特別演習 III
		生態学特別演習 IV
		生態学特別演習 V
		生態学特別演習 VI
		生態学特別演習 VII
		生態学特別演習 VIII
		地球科学特別演習 I
		地球科学特別演習 II
		地球科学特別演習 III
		地球科学特別演習 IV
		地球科学特別演習 V
		地球科学特別演習 VI

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
		担当授業科目名
専	教授	間嶋 隆一
		<平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ
		環境情報イノベーション特別演習 I
		グローバル化特別演習
		生態学特別演習 I
		生態学特別演習 II
		生態学特別演習 III
		生態学特別演習 IV
		生態学特別演習 V
		生態学特別演習 VI
		生態学特別演習 VII
		生態学特別演習 VIII
		地球科学特別演習 I
		地球科学特別演習 II
		地球科学特別演習 III
		地球科学特別演習 IV
		地球科学特別演習 V
		地球科学特別演習 VI
		地球科学特別演習 VII
地球科学特別演習 VIII		
自然環境特別ワークショップ I		
自然環境特別ワークショップ II		
専	教授	菊池 知彦
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth
		地球科学・生態学の手法
		環境情報イノベーション特別演習 I
		グローバル化特別演習
		生態学特別演習 I
		生態学特別演習 II
		生態学特別演習 III
		生態学特別演習 IV
		生態学特別演習 V
		生態学特別演習 VI
		生態学特別演習 VII
		生態学特別演習 VIII
		地球科学特別演習 I
		地球科学特別演習 II
		地球科学特別演習 III
		地球科学特別演習 IV
		地球科学特別演習 V
		地球科学特別演習 VI

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
		担当授業科目名



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	教授	松田 裕之 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		小池 文人 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	教授	松田 裕之 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		小池 文人 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	地球科学特別演習Ⅱ
		地球科学特別演習Ⅲ
		地球科学特別演習Ⅳ
		地球科学特別演習Ⅴ
		地球科学特別演習Ⅵ
		地球科学特別演習Ⅶ
		地球科学特別演習Ⅷ
		環境学術特別演習Ⅰ
		環境学術特別演習Ⅱ
		環境学術特別演習Ⅲ
		環境学術特別演習Ⅳ
		環境学術特別演習Ⅴ
		環境学術特別演習Ⅵ
		環境学術特別演習Ⅶ
		環境学術特別演習Ⅷ
		自然環境特別ワークショップⅠ
		自然環境特別ワークショップⅡ
専	教授	平塚 和之 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ
		環境情報イノベーション特別演習Ⅰ
		グローバル化特別演習
		生態学特別演習Ⅰ
		生態学特別演習Ⅱ
		生態学特別演習Ⅲ
		生態学特別演習Ⅳ
		生態学特別演習Ⅴ
		生態学特別演習Ⅵ
		生態学特別演習Ⅶ
		生態学特別演習Ⅷ
		生態学特別演習Ⅷ
		地球科学特別演習Ⅰ
		地球科学特別演習Ⅱ
		地球科学特別演習Ⅲ
		地球科学特別演習Ⅳ
地球科学特別演習Ⅴ		
地球科学特別演習Ⅵ		
地球科学特別演習Ⅶ		
地球科学特別演習Ⅷ		
自然環境特別ワークショップⅠ		
自然環境特別ワークショップⅡ		
専	教授	酒井 暁子 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全
		環境情報イノベーション特別演習Ⅰ
		グローバル化特別演習
		生態学特別演習Ⅰ
		生態学特別演習Ⅱ
		生態学特別演習Ⅲ
		生態学特別演習Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	地球科学特別演習Ⅱ
		地球科学特別演習Ⅲ
		地球科学特別演習Ⅳ
		地球科学特別演習Ⅴ
		地球科学特別演習Ⅵ
		地球科学特別演習Ⅶ
		地球科学特別演習Ⅷ
		環境学術特別演習Ⅰ
		環境学術特別演習Ⅱ
		環境学術特別演習Ⅲ
		環境学術特別演習Ⅳ
		環境学術特別演習Ⅴ
		環境学術特別演習Ⅵ
		環境学術特別演習Ⅶ
		環境学術特別演習Ⅷ
		自然環境特別ワークショップⅠ
		自然環境特別ワークショップⅡ
専	教授	平塚 和之 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ
		環境情報イノベーション特別演習Ⅰ
		グローバル化特別演習
		生態学特別演習Ⅰ
		生態学特別演習Ⅱ
		生態学特別演習Ⅲ
		生態学特別演習Ⅳ
		生態学特別演習Ⅴ
		生態学特別演習Ⅵ
		生態学特別演習Ⅶ
		生態学特別演習Ⅷ
		生態学特別演習Ⅷ
		地球科学特別演習Ⅰ
		地球科学特別演習Ⅱ
		地球科学特別演習Ⅲ
		地球科学特別演習Ⅳ
地球科学特別演習Ⅴ		
地球科学特別演習Ⅵ		
地球科学特別演習Ⅶ		
地球科学特別演習Ⅷ		
自然環境特別ワークショップⅠ		
自然環境特別ワークショップⅡ		
専	教授	酒井 暁子 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全
		環境情報イノベーション特別演習Ⅰ
		グローバル化特別演習
		生態学特別演習Ⅰ
		生態学特別演習Ⅱ
		生態学特別演習Ⅲ
		生態学特別演習Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名		
		担当授業科目名		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名		
		担当授業科目名		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	生態学特別演習 V 生態学特別演習 VI 生態学特別演習 VII 生態学特別演習 VIII 地球科学特別演習 I 地球科学特別演習 II 地球科学特別演習 III 地球科学特別演習 IV 地球科学特別演習 V 地球科学特別演習 VI 地球科学特別演習 VII 地球科学特別演習 VIII 環境学術特別演習 I 環境学術特別演習 II 環境学術特別演習 III 環境学術特別演習 IV 環境学術特別演習 V 環境学術特別演習 VI 環境学術特別演習 VII 環境学術特別演習 VIII 自然環境特別ワークショップ I 自然環境特別ワークショップ II
		石川 正弘 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習 地球科学特別演習 I 地球科学特別演習 II 地球科学特別演習 III 地球科学特別演習 IV 地球科学特別演習 V 地球科学特別演習 VI 地球科学特別演習 VII 地球科学特別演習 VIII 自然環境特別ワークショップ I 自然環境特別ワークショップ II
専	教授	及川 敬貴 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習 II グローバル化特別演習 生態学特別演習 I 生態学特別演習 II 生態学特別演習 III 生態学特別演習 IV 生態学特別演習 V 生態学特別演習 VI 生態学特別演習 VII
		及川 敬貴 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習 II グローバル化特別演習 生態学特別演習 I 生態学特別演習 II 生態学特別演習 III 生態学特別演習 IV 生態学特別演習 V 生態学特別演習 VI 生態学特別演習 VII

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	生態学特別演習 V 生態学特別演習 VI 生態学特別演習 VII 生態学特別演習 VIII 地球科学特別演習 I 地球科学特別演習 II 地球科学特別演習 III 地球科学特別演習 IV 地球科学特別演習 V 地球科学特別演習 VI 地球科学特別演習 VII 地球科学特別演習 VIII 環境学術特別演習 I 環境学術特別演習 II 環境学術特別演習 III 環境学術特別演習 IV 環境学術特別演習 V 環境学術特別演習 VI 環境学術特別演習 VII 環境学術特別演習 VIII 自然環境特別ワークショップ I 自然環境特別ワークショップ II
		石川 正弘 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習 地球科学特別演習 I 地球科学特別演習 II 地球科学特別演習 III 地球科学特別演習 IV 地球科学特別演習 V 地球科学特別演習 VI 地球科学特別演習 VII 地球科学特別演習 VIII 自然環境特別ワークショップ I 自然環境特別ワークショップ II
専	教授	及川 敬貴 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習 II グローバル化特別演習 生態学特別演習 I 生態学特別演習 II 生態学特別演習 III 生態学特別演習 IV 生態学特別演習 V 生態学特別演習 VI 生態学特別演習 VII
		及川 敬貴 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習 II グローバル化特別演習 生態学特別演習 I 生態学特別演習 II 生態学特別演習 III 生態学特別演習 IV 生態学特別演習 V 生態学特別演習 VI 生態学特別演習 VII

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		生態学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	尾形 信一 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		中村 達夫 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		生態学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	尾形 信一 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		中村 達夫 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	下出 信次 <平成30年4月>
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	和仁 良二 <平成30年4月>
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	下出 信次 <平成30年4月>
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	和仁 良二 <平成30年4月>
		地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	中森 泰三 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		森 章 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	中森 泰三 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		森 章 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	准教授	地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		山本 伸次 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		佐々木 雄大 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	准教授	地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		山本 伸次 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ 生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		佐々木 雄大 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 生態学特別演習Ⅰ 生態学特別演習Ⅱ 生態学特別演習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		大谷 英雄 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	額田 順二 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	本田 清 ＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	鈴木 淳史 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	田村（細見）直良 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	生態学特別演習Ⅳ 生態学特別演習Ⅴ 生態学特別演習Ⅵ 生態学特別演習Ⅶ 生態学特別演習Ⅷ 地球科学特別演習Ⅰ 地球科学特別演習Ⅱ 地球科学特別演習Ⅲ 地球科学特別演習Ⅳ 地球科学特別演習Ⅴ 地球科学特別演習Ⅵ 地球科学特別演習Ⅶ 地球科学特別演習Ⅷ 環境学術特別演習Ⅰ 環境学術特別演習Ⅱ 環境学術特別演習Ⅲ 環境学術特別演習Ⅳ 環境学術特別演習Ⅴ 環境学術特別演習Ⅵ 環境学術特別演習Ⅶ 環境学術特別演習Ⅷ 自然環境特別ワークショップⅠ 自然環境特別ワークショップⅡ
		大谷 英雄 ＜平成30年4月＞ 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	額田 順二 ＜平成30年4月＞ イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	本田 清 ＜平成30年4月＞ 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	鈴木 淳史 ＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	田村（細見）直良 ＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼担	教授	根上 生也 ＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	宮崎 隆 ＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	大谷 裕之 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	大矢 勝 ＜平成30年4月＞
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼担	教授	西村 尚史 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理科学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	長尾 智晴 ＜平成30年4月＞
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	松本 勉 ＜平成30年4月＞
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼担	教授	三宅 淳巳 ＜平成30年4月＞
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼担	教授	中井 里史 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼担	教授	根上 生也 ＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	宮崎 隆 ＜平成30年4月＞
		超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	大谷 裕之 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	大矢 勝 ＜平成30年4月＞
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼担	教授	西村 尚史 ＜平成30年4月＞
		情報学・数理科学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	長尾 智晴 ＜平成30年4月＞
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	教授	松本 勉 ＜平成30年4月＞
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼担	教授	三宅 淳巳 ＜平成30年4月＞
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼担	教授	中井 里史 ＜平成30年4月＞
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	教授	周佐 喜和 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	岡嶋 克典 <平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	森 辰則 <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	山田 貴博 <平成30年4月>
		自然災害を考える―過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	雨宮 隆 <平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	野間 淳 <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	本藤 祐樹 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	安本 雅典 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	松本 真哉 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	教授	周佐 喜和 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	岡嶋 克典 <平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	森 辰則 <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	山田 貴博 <平成30年4月>
		自然災害を考える―過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	雨宮 隆 <平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	野間 淳 <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	本藤 祐樹 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	安本 雅典 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	松本 真哉 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	教授	中野 健 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	中本 敦浩 <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	四方 順司 <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	岡 泰資 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	長谷部 英一 <平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	亀屋 隆志 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	Martin Roger Andrew <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	白崎 実 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	小林 剛 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	教授	中野 健 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	中本 敦浩 <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	四方 順司 <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	岡 泰資 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	長谷部 英一 <平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	亀屋 隆志 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	Martin Roger Andrew <平成30年4月>
		情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	白崎 実 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	小林 剛 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼担	准教授	白石 俊彦
		<平成30年4月> イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	原下 秀士
		<平成30年4月> 情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	松井 和己
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	吉岡 克成
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	伊藤 暁彦
		<平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	小関 健太
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	遠藤 聡
		<平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼担	講師	白川 真一
		<平成30年4月> 情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	講師	藤井 麻樹子
		<平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼担	准教授	白石 俊彦
		<平成30年4月> イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	原下 秀士
		<平成30年4月> 情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	松井 和己
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	吉岡 克成
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	伊藤 暁彦
		<平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	小関 健太
		<平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	准教授	遠藤 聡
		<平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼担	講師	白川 真一
		<平成30年4月> 情報学・数理学の手法 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼担	講師	藤井 麻樹子
		<平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
兼任	講師	牛越 惠理佳
		＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	志田 基与師
		＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	野口 和彦
		＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	金子 信博
		＜平成30年4月＞ 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞
兼任	講師	牛越 惠理佳
		＜平成30年4月＞ 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	志田 基与師
		＜平成30年4月＞ 安心社会のための福祉・医療 イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	野口 和彦
		＜平成30年4月＞ 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	金子 信博
		＜平成30年4月＞ 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・特になし。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
8	8	0	0	16	8	8	0	0	16	8	8	0	0	16
(8)	(8)	(0)	(0)	(16)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
15	1	0			15	1	0			15	1	0		
(15)	(1)	(0)								[ 15 ]	[ 1 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{16} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|



(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<b>該当なし</b>
-------------

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画	
設 置 時 (29年8月)	<p>授業科目「持続可能社会とFuture Earth」について、科目名称に「Future Earth」を掲げる一方で、授業計画上、Future Earthに係る内容が十分でないように見受けられるため、Future Earthの理念や趣旨に係る学修内容を充実させるとともに、本学府の設置の背景にFuture Earth構想を掲げた趣旨に照らし、本学府の全ての学生が、Future Earthの基本的な理念や趣旨に触れられるよう努めること。【3専攻共通】</p>	<p>「持続可能社会とFuture Earth」は環境情報リテラシー科目の1つである。環境情報リテラシー科目の講義群と環境情報ジェネリックスキル科目の「環境情報イノベーション特別演習」とリンクさせて、環境情報に関わる課題発見の演習をすることになっている。その特別演習では、博士課程前期の学生10名程度の小グループの世話役を務めるように博士課程後期の学生が割り当てられる。Future Earthの理念を浸透させるために、どのグループにも「持続可能社会とFuture Earth」の受講者が入るように、グループ編成を行うこととした。このような運営を行うために、「環境情報リテラシー科目運営委員会」を設置した。(H30)</p>	未履行	<p>左記の取り組みに加え、平成30年度春学期に実施する「持続可能社会とFuture Earth」の講義を撮影した動画を視聴できるよう環境を整え「環境情報イノベーション演習」の受講者に視聴を推奨していく。(H30)</p>
	<p>授業科目「グローバル化特別演習」について、掲げられた到達目標の達成に向けて、各学生に適切なオプション選択を促す指導を始めとした、指導教員グループ及び指導委員会による充実した事前指導、事後指導が望まれる。【3専攻共通】</p>	<p>「グローバル化演習」と合わせて「グローバル化特別演習」の運営を行うために、「グループ化演習運営委員会」を設置し、指導委員会が計画した「グローバル化特別演習」の内容を審査した上で、学府長がそれを承認することとした。それにより、オプション選択の適切さおよび事前指導・事後指導の充実を確認することができるようになっていく。(H30)</p>	履行済	
	<p>「プレレキジット科目」について、指導教員グループ及び指導委員会による履修計画の調整に当たっては、科目の指定や開講時間の都合等により学生に不利益が生じないよう、適切かつ丁寧な指導が望まれる。【3専攻共通】</p>	<p>平成30年度がスタートする直前に、環境情報学府の教員全員を対象に新カリキュラムの詳細を説明する公聴会を開催した。その際に、「プレレキジット科目」について説明し、基本的には「プレレキジット科目」に頼らない指導計画を立ててもらうが、必要な場合には学生の不利益にならないよう適切な指導をすることを徹底させた。(H30)</p>	履行済	

<p>10月入学生の受入に際して、各「演習」及び「ワークショップ」については開講時期を見直すことで、開講回数を増やして複数タームでの開講が予定されているが、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「演習」においては、指導教員及び副指導教員の連携・協力のもと実施することで、特定の教員に過度に負担が集中しないよう配慮する。「ワークショップ」については、「ワークショップ運営委員会」を設置し、専攻を越えた日程調整や博士課程後期の学生の配置などを計画することとした。その委員会が、教員の負担が過度にならないようスケジュールを計画して、ワークショップを実行する。(H30)</p>	<p>履行済</p>	
<p>社会人学生の受入に際して、社会人入学者の勤務の都合に応じて夜間、土曜日、日曜日に開講するなど柔軟な対応が検討されていることは、学生本人にとっては望ましい対応と言える一方で、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「環境情報イノベーション演習」の開講は柔軟なスケジュールリングを想定しており、夜間や土日に当該演習を開講することを最小限にできるよう配慮し、学生の利益とのバランスを取りながら運用している。(H30)</p>	<p>未履行</p>	<p>「環境情報リテラシー科目」について、今年度開講分をビデオ録画し、次年度に「授業支援システム」を使ってe-ラーニングで学べる体制を構築中であり、次年度以降、通常の時間帯で受講できない学生向けに、当該講義を夜間や土日に開講する状況を抑制することが期待される。(H30)</p>
<p>社会人学生の受入に際して、「設置の趣旨等を記載した書類」においては、博士前期課程の社会人入学者は極めて例外的と想定していることが明示されていないことや、どの程度の授業科目が夜間、土曜日、日曜日開講の対象となるかが明示されていないことなど具体的な受入体制が明確でないことから、社会人の入学希望者に対しては、事前に具体的な受入体制や支援方策等について適切に情報提供を行うことが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「社会人特別選抜学生募集要項」に「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について」というページを設け、修学の条件や履修計画の立て方、演習科目やワークショップの開講時間の個別対応について明記した。(H30)</p>	<p>履行済</p>	
<p>留学生の受入の促進に向けて、シラバスを英語表記化するなど、留学生に対する学修の支援の充実を図ることが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>現在、HPにおける平成30年度組織改編の概要、渡日前特別選抜の募集要項、全学留学生用パンフレットについて英語表記のものを用意した。(H30)</p>	<p>未履行</p>	<p>シラバスと履修手引きの英語表記化は今年度に行う予定である。(H30)</p>

	海外留学先におけるICTを活用した遠隔指導について、ICTに係る学修環境の違いや時差等、具体的な実施に際しての課題も想定されることから、学生にとって具体的な実施体制が理解しやすいよう実施要領を明文化するなど、事前の履修指導等において適切な情報提供を行うことが望ましい。【3専攻共通】	その他意見	グローバル化演習運営委員会を立ち上げ、海外留学、ショートビジットを希望する学生および指導員からの相談に乗り、その実現方法を協議する体制を整えた。また、本学の授業支援システムを活用して、海外留学やショートビジットを行う上で必要な情報を発信するようにしている。 (H30)	履行済	
設置計画履行状況調査時 (31年2月)					
設置計画履行状況調査時 (32年2月)					

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<環境情報学府 自然環境専攻（博士課程後期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; display: inline-block; font-size: 2em; font-weight: bold;">該当なし</div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センター及び、平成30年度に発足した大学院教育強化推進センターが中心となって教員の資質向上、FD活動を行っている。これらのセンターには、教育開発・学修支援部会が置かれ、環境情報学府から1名が部会委員として関わり、学府内でのFD活動をはじめとする資質の維持向上にかかる連絡調整、実施等を担当している。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センター規則

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

(2) 教育開発・学修支援部門

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第13条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(3) 研究科及び各学府の教授会から選出された教員 各1人

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会： 年4～5回

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会： 年4回程度を予定

##### c 委員会の審議事項等

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会

- ・ 授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等、
- ・ ファカルティ・ディベロップメント 等

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会

- ・ 大学院全学教育科目の全学的な総合調整、授業実施計画、カリキュラム編成
- ・ 大学院の授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ ファカルティ・ディベロップメント 等

## ② 実施状況

### a 実施内容

高大接続・全学教育推進センター及び大学院教育強化推進センターが行う活動に学府として協力・実施する予定である。

- ・ FDフォーラムへの参加
- ・ シラバス改善（ループリックの利用等）
- ・ 新任教員のための研修会出席 等

### b 実施方法

- ・ 各内容に即し、全学でコーディネートして実施する予定

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 毎年開催されている新任教員研修会（今年度4月1日開催）に、新規採用教員を参加させている。

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 2018年3月に『「修士力・博士力」を磨くYNU initiative』を策定し、共通理解の基に実施していく。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

### a 実施の有無及び実施時期

- ・ 未定

### b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 未定

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## （3）自己点検・評価等に関する事項

### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画にしたがった学府改組を行い、入試を実施した。（入試倍率：博士課程前期1.1倍、博士課程後期0.7倍）新カリキュラムに対応した履修案内、時間割を作成し、また、学府全教員を対象とした新カリキュラムに係る公聴会を平成30年3月26日に開催し新カリキュラムの内容を確認するとともに、設置計画の着実かつ効果的の実行を目指し、これまでの学務関係を検討する学務委員会の他に新たに「環境情報リテラシー科目運営委員会」「グローバル化演習運営委員会」「ワークショップ運営委員会」を立ち上げ、新カリキュラムに基づく教育を行っている。

### ② 自己点検・評価報告書

#### a 公表（予定）時期

未定

#### b 公表方法

未定

### ③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

- (注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (4) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表（予定）の有無 （  有 ・  無 ）
- b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 （ 平成30年7月1日 ）

- (注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
- ・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号  
(神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ネガミ セイヤ) 根上 生也 (平成27年4月)		
専攻長 (情報環境専攻 (博士課程後 期))	(オカジマ カツノリ) 岡嶋 克典 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)  
平成30年度に報告する内容 → (30)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
  - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
  - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。



(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
環境情報学府 情報環境専攻 (博士課程後期)  博士(情報学) 博士(理学) 博士(学術)	理学関係 工学関係	年 3	人 12	人 36	基礎となる学部  理工学部 都市科学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	12人 ( - ) [ - ]	-人	12人 ( - ) [ - ]	-人	12人 ( - ) [ - ]	-人			0.91倍	
志願者数	11 ( 5 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
受験者数	11 ( 5 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
合格者数	11 ( 5 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
B 入学者数	11 ( 5 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]								
入学定員超過率 B/A	0.91									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ( )内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ [ ]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	11 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
計	11 [ - ] ( - )		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	11人	0人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合計	11人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

＜環境情報学府 情報環境専攻（博士課程後期）＞

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任						
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手							
学府共通科目	環境情報リテラシー	持続可能社会とFuture Earth	1・2・3①		1			1						8	環境情報リテラシー	1・2・3①		1				1					8		
		超スマート社会の構築に向けて	1・2・3④		1			2	3					4		1・2・3④		1			2	3					4		
		社会インフラにおけるリスクと安全	1・2・3①		1			1						8		1・2・3①		1			1						8		
		安心社会のための福祉・医療	1・2・3④		1			1						8		1・2・3④		1			1						8		
		自然災害を考える—過去から未来へ	1・2・3①		1			1	1	1				5		1・2・3①		1		1	1						5		
		イノベーション・マネジメント	1・2・3④		1			2						7		1・2・3④		1			2						7		
		地球科学・生態学的手法	1・2・3①		1									9		1・2・3①		1									9		
		情報学・数理学的手法	1・2・3④		1			5	3	1							1・2・3④		1		5	3	1						
	ジェスネリツク	環境情報イノベーション特別演習Ⅰ	1・2・3②		1			2	2	1				30	ジェスネリツク	1・2・3②		1			2	2	1				30		
		環境情報イノベーション特別演習Ⅱ	1・2・3⑤		1			10	6	1			19	1・2・3⑤			1			10	6	1				19			
グローバル化特別演習		1・2・3⑥	1				12	8	2					1・2・3⑥		1				12	8	2							
専門教育科目	情報学 数理学 情報学術	情報学特別演習Ⅰ	1①・④		1		8	4	1					情報学 数理学 情報学術	情報学特別演習Ⅰ	1①・④		1		8	4	1							
		情報学特別演習Ⅱ	1②・⑤		1		8	4	1						情報学特別演習Ⅱ	1②・⑤		1		8	4	1							
		情報学特別演習Ⅲ	1①・④		1		8	4	1						情報学特別演習Ⅲ	1①・④		1		8	4	1							
		情報学特別演習Ⅳ	1②・⑤		1		8	4	1						情報学特別演習Ⅳ	1②・⑤		1		8	4	1							
		情報学特別演習Ⅴ	2①・④		1		8	4	1						情報学特別演習Ⅴ	2①・④		1		8	4	1							
		情報学特別演習Ⅵ	2②・⑤		1		8	4	1						情報学特別演習Ⅵ	2②・⑤		1		8	4	1							
		情報学特別演習Ⅶ	2①・④		1		8	4	1						情報学特別演習Ⅶ	2①・④		1		8	4	1							
		情報学特別演習Ⅷ	2②・⑤		1		8	4	1						情報学特別演習Ⅷ	2②・⑤		1		8	4	1							
		数理学特別演習Ⅰ	1①・④		1		5	2	1						数理学特別演習Ⅰ	1①・④		1		5	2	1							
		数理学特別演習Ⅱ	1②・⑤		1		5	2	1						数理学特別演習Ⅱ	1②・⑤		1		5	2	1							
		数理学特別演習Ⅲ	1①・④		1		5	2	1						数理学特別演習Ⅲ	1①・④		1		5	2	1							
		数理学特別演習Ⅳ	1②・⑤		1		5	2	1						数理学特別演習Ⅳ	1②・⑤		1		5	2	1							
		数理学特別演習Ⅴ	2①・④		1		5	2	1						数理学特別演習Ⅴ	2①・④		1		5	2	1							
		数理学特別演習Ⅵ	2②・⑤		1		5	2	1						数理学特別演習Ⅵ	2②・⑤		1		5	2	1							
		数理学特別演習Ⅶ	2①・④		1		5	2	1						数理学特別演習Ⅶ	2①・④		1		5	2	1							
		数理学特別演習Ⅷ	2②・⑤		1		5	2	1						数理学特別演習Ⅷ	2②・⑤		1		5	2	1							
		情報学術特別演習Ⅰ	1①・④		1		2	4							情報学術特別演習Ⅰ	1①・④		1		2	4								
		情報学術特別演習Ⅱ	1②・⑤		1		2	4							情報学術特別演習Ⅱ	1②・⑤		1		2	4								
		情報学術特別演習Ⅲ	1①・④		1		2	4							情報学術特別演習Ⅲ	1①・④		1		2	4								
		情報学術特別演習Ⅳ	1②・⑤		1		2	4							情報学術特別演習Ⅳ	1②・⑤		1		2	4								
		情報学術特別演習Ⅴ	2①・④		1		2	4							情報学術特別演習Ⅴ	2①・④		1		2	4								
		情報学術特別演習Ⅵ	2②・⑤		1		2	4							情報学術特別演習Ⅵ	2②・⑤		1		2	4								
		情報学術特別演習Ⅶ	2①・④		1		2	4							情報学術特別演習Ⅶ	2①・④		1		2	4								
		情報学術特別演習Ⅷ	2②・⑤		1		2	4							情報学術特別演習Ⅷ	2②・⑤		1		2	4								
		ワークショップ	情報環境特別ワークショップⅠ	1②・⑤	1			12	8	2						ワークショップ	情報環境特別ワークショップⅠ	1②・⑤	1			12	8	2					
				2①・④	1			12	8	2					2①・④			1			12	8	2						

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

特になし。
-------

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	34 科目	科目	37 科目	3 科目 [ ]	34 科目 [ ]	科目 [ ]	37 科目 [ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"><h2 style="margin: 0;">該当なし</h2></div>
---

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{37} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	335,097 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	335,097 m <sup>2</sup>			
	運動場用地	89,916 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	89,916 m <sup>2</sup>			
	小 計	425,013 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	425,013 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	237,446 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	237,446 m <sup>2</sup>			
	合 計	662,459 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	662,459 m <sup>2</sup>			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	175,694 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	環境情報学府		89 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	部局単位での特定不能なため、大学全体の数
		[うち外国書]	[うち外国書]					
	冊	種	点	点	点			
	環境情報学府 [附属図書館]	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)	
計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	15,336 m <sup>2</sup>		1,472 席		1,346,389 冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	3,882 m <sup>2</sup>		野球場		テニスコートほか			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	238	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻(専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		
人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度		



環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報経営、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
大学の名称	横浜国立大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定学員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
教育学部	年	人	年次人	人		倍		
学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
教育人間科学部								
人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
理工学部								
機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度	
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度	平成29年学生募集停止
工学部								
生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度	
教育学研究科								
教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号
国際社会科学府								
経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度	
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度	
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度	
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度	
法曹実務専攻(専門職学位課程)	3	25	-	75	法務博士(専門職)	0.41	平成25年度	
国際社会科学府研究科								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台70番

グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度	〒201-8501 東京都千代田区千代田4号	平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>									
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<環境情報学府 情報環境専攻 (博士課程後期)>

(1) - ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【平成31年度】

【平成32年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
専	教授	額田 順二 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報学術特別演習Ⅰ 情報学術特別演習Ⅱ 情報学術特別演習Ⅲ 情報学術特別演習Ⅳ 情報学術特別演習Ⅴ 情報学術特別演習Ⅵ 情報学術特別演習Ⅶ 情報学術特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		田村(細見) 直良 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		根上 生也 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
専	教授	額田 順二 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報学術特別演習Ⅰ 情報学術特別演習Ⅱ 情報学術特別演習Ⅲ 情報学術特別演習Ⅳ 情報学術特別演習Ⅴ 情報学術特別演習Ⅵ 情報学術特別演習Ⅶ 情報学術特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		田村(細見) 直良 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		根上 生也 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	西村 尚史 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	長尾 智晴 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	松本 勉 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	西村 尚史 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	長尾 智晴 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	松本 勉 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	岡嶋 克典 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		森 辰則 <平成30年4月> 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	山田 貴博 <平成30年4月> 自然災害を考える―過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	岡嶋 克典 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		森 辰則 <平成30年4月> 情報学・数理学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	山田 貴博 <平成30年4月> 自然災害を考える―過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		情報学術特別演習Ⅰ 情報学術特別演習Ⅱ 情報学術特別演習Ⅲ 情報学術特別演習Ⅳ 情報学術特別演習Ⅴ 情報学術特別演習Ⅵ 情報学術特別演習Ⅶ 情報学術特別演習Ⅷ 情報学術特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	野間 淳 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		中本 敦浩 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	四方 順司 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		情報学術特別演習Ⅰ 情報学術特別演習Ⅱ 情報学術特別演習Ⅲ 情報学術特別演習Ⅳ 情報学術特別演習Ⅴ 情報学術特別演習Ⅵ 情報学術特別演習Ⅶ 情報学術特別演習Ⅷ 情報学術特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	野間 淳 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		中本 敦浩 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	教授	四方 順司 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	情報学特別演習V 情報学特別演習VI 情報学特別演習VII 情報学特別演習VIII 数理科学特別演習I 数理科学特別演習II 数理科学特別演習III 数理科学特別演習IV 数理科学特別演習V 数理科学特別演習VI 数理科学特別演習VII 数理科学特別演習VIII 情報環境特別ワークショップI 情報環境特別ワークショップII
		Martin Roger Andrew <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習 情報学術特別演習I 情報学術特別演習II 情報学術特別演習III 情報学術特別演習IV 情報学術特別演習V 情報学術特別演習VI 情報学術特別演習VII 情報学術特別演習VIII 情報環境特別ワークショップI 情報環境特別ワークショップII
専	准教授	白崎 実 <平成30年4月> 自然災害を考えるー過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 情報学特別演習I 情報学特別演習II 情報学特別演習III 情報学特別演習IV 情報学特別演習V 情報学特別演習VI 情報学特別演習VII 情報学特別演習VIII 情報学術特別演習I 情報学術特別演習II 情報学術特別演習III 情報学術特別演習IV 情報学術特別演習V 情報学術特別演習VI 情報学術特別演習VII
		白崎 実 <平成30年4月> 自然災害を考えるー過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 情報学特別演習I 情報学特別演習II 情報学特別演習III 情報学特別演習IV 情報学特別演習V 情報学特別演習VI 情報学特別演習VII 情報学特別演習VIII 情報学術特別演習I 情報学術特別演習II 情報学術特別演習III 情報学術特別演習IV 情報学術特別演習V 情報学術特別演習VI 情報学術特別演習VII

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	教授	情報学特別演習V 情報学特別演習VI 情報学特別演習VII 情報学特別演習VIII 数理科学特別演習I 数理科学特別演習II 数理科学特別演習III 数理科学特別演習IV 数理科学特別演習V 数理科学特別演習VI 数理科学特別演習VII 数理科学特別演習VIII 情報環境特別ワークショップI 情報環境特別ワークショップII
		Martin Roger Andrew <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習II グローバル化特別演習 情報学術特別演習I 情報学術特別演習II 情報学術特別演習III 情報学術特別演習IV 情報学術特別演習V 情報学術特別演習VI 情報学術特別演習VII 情報学術特別演習VIII 情報環境特別ワークショップI 情報環境特別ワークショップII
専	准教授	白崎 実 <平成30年4月> 自然災害を考えるー過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 情報学特別演習I 情報学特別演習II 情報学特別演習III 情報学特別演習IV 情報学特別演習V 情報学特別演習VI 情報学特別演習VII 情報学特別演習VIII 情報学術特別演習I 情報学術特別演習II 情報学術特別演習III 情報学術特別演習IV 情報学術特別演習V 情報学術特別演習VI 情報学術特別演習VII
		白崎 実 <平成30年4月> 自然災害を考えるー過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習I グローバル化特別演習 情報学特別演習I 情報学特別演習II 情報学特別演習III 情報学特別演習IV 情報学特別演習V 情報学特別演習VI 情報学特別演習VII 情報学特別演習VIII 情報学術特別演習I 情報学術特別演習II 情報学術特別演習III 情報学術特別演習IV 情報学術特別演習V 情報学術特別演習VI 情報学術特別演習VII

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		情報学術特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	富井 尚志 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		藤井 友比呂 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学術特別演習Ⅰ 情報学術特別演習Ⅱ 情報学術特別演習Ⅲ 情報学術特別演習Ⅳ 情報学術特別演習Ⅴ 情報学術特別演習Ⅵ 情報学術特別演習Ⅶ 情報学術特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	原下 秀士 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		情報学術特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	富井 尚志 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
		藤井 友比呂 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学術特別演習Ⅰ 情報学術特別演習Ⅱ 情報学術特別演習Ⅲ 情報学術特別演習Ⅳ 情報学術特別演習Ⅴ 情報学術特別演習Ⅵ 情報学術特別演習Ⅶ 情報学術特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	准教授	原下 秀士 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名





専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	講師	白川 真一 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	講師	牛越 恵理佳 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
兼任	教授	大谷 英雄 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	本田 清 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	間嶋 隆一 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	講師	白川 真一 <平成30年4月> 情報学・数理科学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ グローバル化特別演習 情報学特別演習Ⅰ 情報学特別演習Ⅱ 情報学特別演習Ⅲ 情報学特別演習Ⅳ 情報学特別演習Ⅴ 情報学特別演習Ⅵ 情報学特別演習Ⅶ 情報学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
専	講師	牛越 恵理佳 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習 数理科学特別演習Ⅰ 数理科学特別演習Ⅱ 数理科学特別演習Ⅲ 数理科学特別演習Ⅳ 数理科学特別演習Ⅴ 数理科学特別演習Ⅵ 数理科学特別演習Ⅶ 数理科学特別演習Ⅷ 情報環境特別ワークショップⅠ 情報環境特別ワークショップⅡ
兼任	教授	大谷 英雄 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	本田 清 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	間嶋 隆一 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
兼任	教授	菊池 知彦
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	鈴木 淳史
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	宮崎 隆
		<平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	大谷 裕之
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	大矢 勝
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	松田 裕之
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	三宅 淳巳
		<平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	小池 文人
		<平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	中井 里史
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
兼任	教授	菊池 知彦
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	鈴木 淳史
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	宮崎 隆
		<平成30年4月>
		超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	大谷 裕之
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	大矢 勝
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	松田 裕之
		<平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	三宅 淳巳
		<平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	小池 文人
		<平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	中井 里史
		<平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	教授	平塚 和之 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習
兼任	教授	周佐 喜和 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習 II
兼任	教授	雨宮 隆 <平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習 II
兼任	教授	酒井 暁子 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習
兼任	教授	本藤 祐樹 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習
兼任	教授	石川 正弘 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習
兼任	教授	安本 雅典 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習 II
兼任	教授	及川 敬貴 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習 II
兼任	教授	松本 真哉 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	教授	平塚 和之 <平成30年4月>
		自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習
兼任	教授	周佐 喜和 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習 II
兼任	教授	雨宮 隆 <平成30年4月>
		安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習 II
兼任	教授	酒井 暁子 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習
兼任	教授	本藤 祐樹 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習
兼任	教授	石川 正弘 <平成30年4月>
		社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習
兼任	教授	安本 雅典 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習 II
兼任	教授	及川 敬貴 <平成30年4月>
		イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習 II
兼任	教授	松本 真哉 <平成30年4月>
		持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習 I グローバル化特別演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月> 担当授業科目名
兼任	教授	中野 健 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		岡 泰資 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	長谷部 英一 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
		亀屋 隆志 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	尾形 信一 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
		小林 剛 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	田中 良巳 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		荒牧 賢治 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	中村 達夫 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月> 担当授業科目名
兼任	教授	中野 健 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		岡 泰資 <平成30年4月> 自然災害を考える—過去から未来へ 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	長谷部 英一 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
		亀屋 隆志 <平成30年4月> イノベーション・マネジメント グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	尾形 信一 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
		小林 剛 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	田中 良巳 <平成30年4月> 社会インフラにおけるリスクと安全 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		荒牧 賢治 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	中村 達夫 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月> 担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月> 担当授業科目名



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	准教授	森 章 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		伊藤 暁彦 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	山本 伸次 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		佐々木 雄大 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	遠藤 聡 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		藤井 麻樹子 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	志田 基与師 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
		野口 和彦 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	金子 信博 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	准教授	森 章 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		伊藤 暁彦 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	准教授	山本 伸次 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		佐々木 雄大 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	准教授	遠藤 聡 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
		藤井 麻樹子 <平成30年4月> 持続可能社会とFuture Earth 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ グローバル化特別演習
兼任	教授	志田 基与師 <平成30年4月> 安心社会のための福祉・医療 イノベーション・マネジメント 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
		野口 和彦 <平成30年4月> 超スマート社会の構築に向けて グローバル化特別演習 環境情報イノベーション特別演習Ⅱ
兼任	教授	金子 信博 <平成30年4月> 地球科学・生態学の手法 環境情報イノベーション特別演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 担当授業科目名

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
12	8	2	0	22	12	8	2	0	22	12	8	2	0	22
(12)	(8)	(2)	(0)	(2)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
21	1	0			21	1	0			21	1	0		
(21)	(1)	(0)								[ 21 ]	[ 1 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{22}{22} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{22} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|



## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画	
設 置 時 (29年8月)	<p>授業科目「持続可能社会とFuture Earth」について、科目名称に「Future Earth」を掲げる一方で、授業計画上、Future Earthに係る内容が十分でないように見受けられるため、Future Earthの理念や趣旨に係る学修内容を充実させるとともに、本学府の設置の背景にFuture Earth構想を掲げた趣旨に照らし、本学府の全ての学生が、Future Earthの基本的な理念や趣旨に触れられるよう努めること。【3専攻共通】</p>	<p>「持続可能社会とFuture Earth」は環境情報リテラシー科目の1つである。環境情報リテラシー科目の講義群と環境情報ジェネリックスキル科目の「環境情報イノベーション特別演習」とリンクさせて、環境情報に関わる課題発見の演習をすることになっている。その特別演習では、博士課程前期の学生10名程度の小グループの世話役を務めるように博士課程後期の学生が割り当てられる。Future Earthの理念を浸透させるために、どのグループにも「持続可能社会とFuture Earth」の受講者が入るように、グループ編成を行うこととした。このような運営を行うために、「環境情報リテラシー科目運営委員会」を設置した。(H30)</p>	未履行	<p>左記の取り組みに加え、平成30年度春学期に実施する「持続可能社会とFuture Earth」の講義を撮影した動画を視聴できるよう環境を整え「環境情報イノベーション演習」の受講者に視聴を推奨していく。(H30)</p>
	<p>授業科目「グローバル化特別演習」について、掲げられた到達目標の達成に向けて、各学生に適切なオプション選択を促す指導を始めとした、指導教員グループ及び指導委員会による充実した事前指導、事後指導が望まれる。【3専攻共通】</p>	<p>「グローバル化演習」と合わせて「グローバル化特別演習」の運営を行うために、「グループ化演習運営委員会」を設置し、指導委員会が計画した「グローバル化特別演習」の内容を審査した上で、学府長がそれを承認することとした。それにより、オプション選択の適切さおよび事前指導・事後指導の充実を確認することができるようになっていく。(H30)</p>	履行済	
	<p>「プレレキジット科目」について、指導教員グループ及び指導委員会による履修計画の調整に当たっては、科目の指定や開講時間の都合等により学生に不利益が生じないよう、適切かつ丁寧な指導が望まれる。【3専攻共通】</p>	<p>平成30年度がスタートする直前に、環境情報学府の教員全員を対象に新カリキュラムの詳細を説明する公聴会を開催した。その際に、「プレレキジット科目」について説明し、基本的には「プレレキジット科目」に頼らない指導計画を立ててもらうが、必要な場合には学生の不利益にならないよう適切な指導をすることを徹底させた。(H30)</p>	履行済	

<p>10月入学生の受入に際して、各「演習」及び「ワークショップ」については開講時期を見直すことで、開講回数を増やして複数タームでの開講が予定されているが、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「演習」においては、指導教員及び副指導教員の連携・協力のもと実施することで、特定の教員に過度に負担が集中しないよう配慮する。「ワークショップ」については、「ワークショップ運営委員会」を設置し、専攻を越えた日程調整や博士課程後期の学生の配置などを計画することとした。その委員会が、教員の負担が過度にならないようにスケジュールを計画して、ワークショップを実行する。(H30)</p>	<p>履行済</p>	
<p>社会人学生の受入に際して、社会人入学者の勤務の都合に応じて夜間、土曜日、日曜日に開講するなど柔軟な対応が検討されていることは、学生本人にとっては望ましい対応と言える一方で、教員の負担が増えることが懸念されることから、その運用に当たっては教員の負担が過度にならないような配慮と工夫が望まれる。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「環境情報イノベーション演習」の開講は柔軟なスケジュールリングを想定しており、夜間や土日に当該演習を開講することを最小限にできるよう配慮し、学生の利益とのバランスを取りながら運用している。(H30)</p>	<p>未履行</p>	<p>「環境情報リテラシー科目」について、今年度開講分をビデオ録画し、次年度に「授業支援システム」を使ってe-ラーニングで学べる体制を構築中であり、次年度以降、通常の時間帯で受講できない学生向けに、当該講義を夜間や土日に開講する状況を抑制することが期待される。(H30)</p>
<p>社会人学生の受入に際して、「設置の趣旨等を記載した書類」においては、博士前期課程の社会人入学者は極めて例外的と想定していることが明示されていないことや、どの程度の授業科目が夜間、土曜日、日曜日開講の対象となるかが明示されていないことなど具体的な受入体制が明確でないことから、社会人の入学希望者に対しては、事前に具体的な受入体制や支援方策等について適切に情報提供を行うことが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>「社会人特別選抜学生募集要項」に「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について」というページを設け、修学の条件や履修計画の立て方、演習科目やワークショップの開講時間の個別対応について明記した。(H30)</p>	<p>履行済</p>	
<p>留学生の受入の促進に向けて、シラバスを英語表記化するなど、留学生に対する学修の支援の充実を図ることが望ましい。 【3専攻共通】</p>	<p>その他意見</p>	<p>現在、HPにおける平成30年度組織改編の概要、渡日前特別選抜の募集要項、全学留学生用パンフレットについて英語表記のものを用意した。(H30)</p>	<p>未履行</p>	<p>シラバスと履修手引きの英語表記化は今年度に行う予定である。(H30)</p>

	海外留学先におけるICTを活用した遠隔指導について、ICTに係る学修環境の違いや時差等、具体的な実施に際しての課題も想定されることから、学生にとって具体的な実施体制が理解しやすいよう実施要領を明文化するなど、事前の履修指導等において適切な情報提供を行うことが望ましい。【専攻共通】	その他意見	グローバル化演習運営委員会を立ち上げ、海外留学、ショートビジットを希望する学生および指導員からの相談に乗り、その実現方法を協議する体制を整えた。また、本学の授業支援システムを活用して、海外留学やショートビジットを行う上で必要な情報を発信するようにしている。 (H30)	履行済	
設置計画履行状況 調査時 (31年2月)					
設置計画履行状況 調査時 (32年2月)					

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<環境情報学府 情報環境専攻（博士課程後期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <h1 style="margin: 0;">該当なし</h1> </div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センター及び、平成30年度に発足した大学院教育強化推進センターが中心となって教員の資質向上、FD活動を行っている。これらのセンターには、教育開発・学修支援部会が置かれ、環境情報学府から1名が部会委員として関わり、学府内でのFD活動をはじめとする資質の維持向上にかかる連絡調整、実施等を担当している。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

##### ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センター規則

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

(2) 教育開発・学修支援部門

##### ○横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

第13条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(3) 研究科及び各学府の教授会から選出された教員 各1人

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会： 年4～5回

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会： 年4回程度を予定

##### c 委員会の審議事項等

○高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会

- ・ 授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等、
- ・ ファカルティ・ディベロップメント 等

○大学院教育強化推進センター教育開発・学修支援部会

- ・ 大学院全学教育科目の全学的な総合調整、授業実施計画、カリキュラム編成
- ・ 大学院の授業設計と成績評価、シラバスの改善、・ ファカルティ・ディベロップメント 等

## ② 実施状況

### a 実施内容

高大接続・全学教育推進センター及び大学院教育強化推進センターが行う活動に学府として協力・実施する予定である。

- ・ FDフォーラムへの参加
- ・ シラバス改善（ループリックの利用等）
- ・ 新任教員のための研修会出席 等

### b 実施方法

- ・ 各内容に即し、全学でコーディネートして実施する予定

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 毎年開催されている新任教員研修会（今年度4月1日開催）に、新規採用教員を参加させている。

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 2018年3月に『「修士力・博士力」を磨くYNU initiative』を策定し、共通理解の基に実施していく。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

### a 実施の有無及び実施時期

- ・ 未定

### b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 未定

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## （3）自己点検・評価等に関する事項

### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画にしたがった学府改組を行い、入試を実施した。（入試倍率：博士課程前期1.1倍、博士課程後期0.7倍）新カリキュラムに対応した履修案内、時間割を作成し、また、学府全教員を対象とした新カリキュラムに係る公聴会を平成30年3月26日に開催し新カリキュラムの内容を確認するとともに、設置計画の着実かつ効果的の実行を目指し、これまでの学務関係を検討する学務委員会の他に新たに「環境情報リテラシー科目運営委員会」「グローバル化演習運営委員会」「ワークショップ運営委員会」を立ち上げ、新カリキュラムに基づく教育を行っている。

### ② 自己点検・評価報告書

#### a 公表（予定）時期

未定

#### b 公表方法

未定

### ③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

- (注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (4) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表(予定)の有無 (  有 ・  無 )
- b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

- (注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
- ・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。